

令和元年度(2019年度)

国際教育

地球市民を地域とともに育てよう Part 18

報告書



公益財団法人滋賀県国際協会

目 次

◇ 目 次	1
-------------	---

実績報告

◇ 国際教育ワークショップ	2
---------------------	---

地球市民を地域とともに育てよう Part 18

「日本で“外国人”になるということ～多文化共生社会を考える～」

講 師 山中 信幸 さん 川崎医療福祉大学 教授

開催日 2019年11月23日（土）

会 場 ピアザ淡海305会議室

主 催 公益財団法人滋賀県国際協会

共 催 独立行政法人国際協力機構関西国際センター（JICA関西）

協 力 国際教育研究会 Glocal net Shiga

◇ 国際教育教材体験フェア in 滋賀 Part 10	23
-----------------------------------	----

開催日 2019年 8 月 9 日（金）

会 場 ピアザ淡海203・204会議室

主 催 公益財団法人滋賀県国際協会

共 催 国際教育研究会 Glocal net Shiga

協 力 独立行政法人国際協力機構関西国際センター（JICA関西）

資料集

◇ 滋賀県における外国人人口統計	28
◇ 国際教育研究会 Glocal net Shiga 活動報告	29
◇ 国際教育・開発教育貸出教材の紹介	31

実績報告

国際教育ワークショップ 報告

地球市民を地域とともに育てよう Part 18

「日本で“外国人”になるということ
～多文化共生社会を考える～」

国際教育教材体験フェアin 滋賀 報告

日本で“外国人”になるということ ～多文化共生社会を考える～

開催日：2019年11月23日（土）10:20～16:45

会 場：ピアザ淡海305会議室

参加者数：22名

主 催：公益財団法人滋賀県国際協会

共 催：JICA関西

協 力：Glocal net Shiga

■講師の紹介



川崎医療福祉大学 教授

山中 信幸さん

国際理解教育・開発教育の単元開発、教材開発に取り組むと共に、ファシリテーターの養成について研究している。また、YMCA・JICAなどと連携して開発教育の普及推進に携わり、教員や一般、学生を対象としたワークショップを数多く実施している。著書『新しい開発教育のすすめ方 II 難民』（古今書院）・『開発教育 持続可能な世界のために』（学文社）・『開発教育で実践するESDカリキュラム』（学文社）他。

午前の部 「外国人として生きるってどういうことなの？」

今日は私もお話はさせていただきますが、皆さんにもお話し合いをしていただいて気づきを共有する時間も取りながら進めさせていただきます。

《ルールの確認》

- 人の話は聴く 「聴」という漢字のつくり（右上部）にある「十」は何か？
→「手」を表しているという説がある。目や手で触れて（スキンシップには抵抗感がある方もおられるかもしれないが）感覚を研ぎ澄ませて、人の話をしっかり聴く。
- 人の話を遮らない。受け止めてから話す。バランスが大事。
- 否定しない。否定的な言葉を使わない。
- 言いたくないことは言わなくてよい。
- 気がついたことは、なんでも言葉にしてみる。
- わかりやすい言葉で、相手に配慮した言葉で伝える。
大きな声で。伝わるように。



グループ内で自己紹介

A4の紙を三等分し、一つの面に①名前（今日読んでほしい名前）、②所属、③なぜ今日参加したのかを書き、グループ内で自己紹介を行う。

【ハテナクイズ】

原沢伊都夫（2013）『異文化理解入門』研究者より作成

設 問

- Q. 1 最後の数式の答えは何でしょう？
- Q. 2 次の絵に何が書かれているでしょう？
- Q. 3 マッチ棒3本で三角形が1つ作ってあります。あと3本付け加えて、これと同じ三角形を4つ作ってください。

答え合わせ

※ 答えを導くヒント

- 十二進法で考える
- 白地の部分に焦点を当てる
- 立体（三次元）でとらえる

- Q. 4 「異文化理解」のために、このようなクイズをすることの意味は何でしょう？

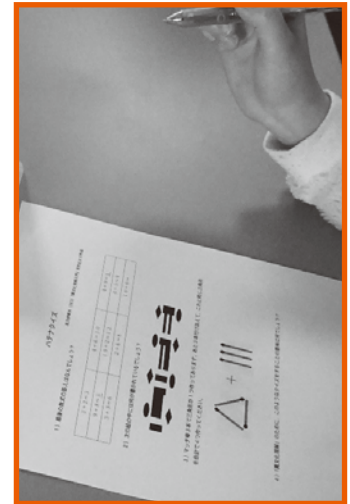
多文化共生社会を考える際に異文化理解から始めてもよいが、そのために、なぜこうしたクイズをする意味があるのか？グループで話し合ってみましょう。

参加者からの意見

- 視点を変える
- よく考えたらわかってくる
- 思い込んでいないところを見る

学習障害の子どもには、このように見えることもある。いろんな状況があることを理解しながら、その人がどのように感じているかを考えること、見ること

- 発想を豊かにする 固定観念にとらわれないようにする



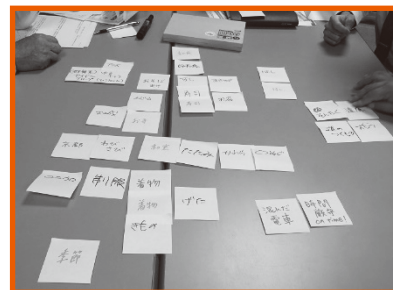
【首振りドラゴン（錯視）】

この立体のドラゴンを片目をつぶって、右→正面→左へと移動しながら見てみると、常に自分の方に首を向けているように見える。これは錯視が起こっているから。では、なぜ錯視が起きるのかというと、このドラゴンの目と鼻が引っ込んでいる形状にある。人間の脳は、通常目や鼻は出っ張っていると情報処理しているが、このドラゴンのように目と鼻が引っ込んでいると正常に認識できなくなってしまうために起こる。



例えば、壊れたエスカレーターを駆け上がったことのある人はいませんか？冷静に考えると階段とまったく同じなのに、私たちの脳は、エスカレーターは動いているものと覚えてしまっているの、体がついていかず前へつんのめってしまう現象が起こる。

こんなふうには人間の脳は、ステレオタイプで見てしまっていることが結構あるのかもしれない。そうした認識や考え方を、こうした場でいろいろな人と交流する中で、気づきを分かち合いながら、新たな気づきを発見することが大事だと思う。



【日本で“外国人”になること】

ステップ1 日本文化といえば、何を思い浮かべるか？

グループワーク ブレインストーミング

- ① 個人ごとに付箋1枚につき1つずつ、思い浮かんだものをできるだけたくさん書き出していく。
- ② グループ全体で書き出した付箋をカテゴリー別に分ける。

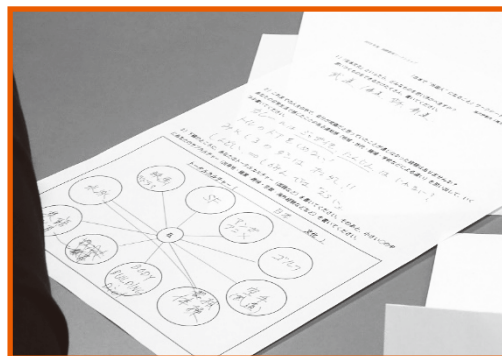
発表「日本文化とは〇〇〇」

- 「忖度」「遠慮」 ⇒ 配慮と言い換えると、忖度とつながるか？
- 「夫婦の在り方」「空気を読む」「行列に並ぶ」
⇒ 女性は家を守り、男性を泳がす
奥様、嫁という表現…家に嫁ぐ、夫婦の婦は家の掃除をするが語源
- 「伝統的な文化」「最近のクールジャパンからきているサブカルチャー」「アニメ」「和食」
⇒ どちらかと言えば固定観念
- 「四季をめぐる」「さくら」「英語が下手」「時間厳守」「おもてなし」
- 「伝統文化」「漫画アニメ」「J-POP」「ハロウィンやクリスマスにバカ騒ぎする」

ステップ2 自分の常識が通じなかった経験、違和感についてグループ内で共有

発表

- 「おつかれさま」の使い方の変化
- 「ら」抜き言葉
- 方言「あずる」 寝相が悪いという意味（鳥取）
- アメリカの学校 休憩時間
- イスラムの礼拝
- スマホ依存世代 など



ステップ3 トータルカルチャー（例：国籍など）と自身の中のサブカルチャー（例：出身地、職業、趣味、宗教、会議経験など）を記入する

トータルカルチャーについては、国籍だけでなく、私は地球人だと感じている方はそう書いてもかまわない。書き終わったら、グループ内で共有する。

さて、それぞれの方のサブカルチャーとその理由を共有していただいた。改めて自分のサブカルチャーを思い返して、話してみるというプロセスを通して、もう一度皆さんのトータルカルチャーについて考えてもらいたい。

トータルカルチャーの枠に「日本人」と書いた人はおられますね。「日本国民」と書いた人はおられない。さて、その違いは何か。「日本国民」は日本国籍を持つ人、「日本人」は人種のことを表すということもあるかもしれないが、例えば、海外に移住された方で、海外の国籍を持つ人の中に、私は『日本人』だという人もいます。これはその人のアイデンティティの問題となる。

みなさんのサブカルチャーからみて、そこから見えるトータルカルチャーを見直すと、自分が一番こだわっていて、アイデンティティを感じている、根っこにあるトータルな文化とは何か？を考えていただきたい。

さて、「日本文化とは？」との問いに、日本料理、お節料理、お雑煮があげられることがある。皆さんのお雑煮の中には何が入っていますか？あんこ入り、四角いお餅、丸餅、焼いた餅、焼いていない餅、白みそ、おすましなどなど、結構異なっている。淡路島では、風土記には、淡路のお雑煮には餅が入っておらず豆腐だったと書かれている。淡路は西日本最大級のたたら場があり、鉄器が渡ってきたところで、製塩技術が届いたところで「おのころ文化」と言われている。塩を使われて作られるものとして豆腐が使われるようになったと考えられている。文化には歴史的な文化もあり、皆さんそれぞれのアイデンティティを文化と呼ぶことが正しいのかどうかと考える必要があるのかもしれない。

日本文化といってもステレオタイプでとらえることができない様々な特徴や特性があり、自分らしさ、その土地らしさを出す、そこから見えてくるものもあるかもしれない。日本文化に「時間厳守」が挙がっていたが、あるバラエティ番組で、沖縄あるあるの例が出されていた。沖縄では飲み会の約束であっても時間通りには集まらないそう。約束が8時であつたら、8時からお風呂に入りだし、二次会が始まる頃にやっと全員揃うのだという。これは土地柄だけなのか、その土地で醸成された関係性が文化を作っていくということなのかもしれない。

広辞苑（第4版）に「『文化』とは人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果。衣食住をはじめ技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治など生活形成の様式と内容を含む」と書かれている。つまり、「人間が自然に手を加えて作ってきた心とモノ両面の成果」であると。では、文化の反対語は、手を加えない自然のまま、自然の状態から手を加えられるほど高度な文化になる、ということなのか？個人的には、納得できるようで、そうでないようにも感じる。

そこで、皆さんが考える文化の定義を3つにまとめてもらいたい。

グループワーク「文化とは〇〇〇である」を考える

発 表

- 「シンボル」、「習慣」、「無意識に作り上げた共有する価値観」
- 「自然との調和」、「生活を心の面で豊かにする」、「伝統的なもの」
- 「人間だけが作れるもの」、「文明とは区別として使われる」、「水・文字と深い関わりを持っている」
- 「一人ではなく複数いるところで起こる」、「環境」、「生活」
- 「他者との関係性で出来上がるものという前提」
- 「人の営みによって作られる」、「違い」⇒ 地球人がみんな同じであつたら文化はできなかったらうから、違いをカテゴリー分けするために出てきたのか

原沢伊都夫さんが「文化の特徴」を以下のようにまとめられている。『異文化理解入門』研究社（2014）

1. 文化は学習される。
2. 文化は伝達・伝承される。
3. 文化は常に変化する。
4. 文化は規範である。
5. すべての文化要素は相互関係にある。
6. 文化は自民族中心である。

⇒だから違和感を覚えるのかもしれない。それを乗り越えていく何かが大事なのかもしれない。

松尾知明さんは「文化概念の今日の特徴」として、以下のように定義されている。

『多文化共生のためのテキストハンドブック』明石書店（2014）

文化とは、変化するもの
文化とは、ハイブリッドなもの
文化とは、同じ集団内にも多様性があるもの

ただ、今日のテーマである「日本で外国人になる」というとき、本当にこの多様性が認められる社会となっているのだろうかということを考えなくてはならない。

アメリカでは、移民として来られている方は『アフリカ系アメリカ人』、『スペイン系アメリカ人』と呼び、日本では『日系ブラジル人』と呼ぶ。ここに、違いがあるのかもしれない。私たちの日ごろ感じていることなどにもステレオタイプが見えてくるかもしれない。

トータルカルチャーについて国籍にとらわれない、いろんな見方考え方ができるのではないかということが話に出ていたが、今からお配りする教育新聞の記事（2019年9月27日）に、就学していないとみられる外国籍児童生徒が全国で1万9654人ということが公表された。外国籍児童生徒の就学状況を把握しきれていないという内容だった。

日本国憲法第26条には、「ひとしく教育を受ける権利を有する」とある。憲法の中の主語は「日本国民」。では、この子たちは入らないのかという問題。しかし、世界人権宣言にも「すべての人は教育を受ける権利を有する」とあり、少なくとも初等教育および基礎的段階においては無償でなくてはならないとなっている。また子どもの権利条約の中にも子どもが教育を受ける権利が書かれていて、日本は条約に批准している。だが、この記事のような現実がある。この子たちは、国籍を持っていないから教育を受けなくてよいということになるのか、集約できるのかというと、そうではないと思う。

島根県では、不就学の子どもを全部調査し、学校に行けるようにしているそうだ。外国人労働者の給与を日本人同等にしようという動きもある。午後から難民の話をするが、難民事業本部には、いまだに企業主から安い労働力を紹介してほしいという問い合わせがあるそうだが、島根県では、ちゃんと日本人と同等の待遇を考えている。村の中で日本人と結婚した外国人に通訳を派遣し支援する取り組みもしている。なぜこれほど手厚いのか？そう、人口減少の問題がその背景にある。外国人労働者と一緒にやっていこう、人口減少に悩む切羽詰まった状況の中の取り組みとして始まっている。こうしたことは、鳥取や島根だけで起こっている状況なのかということではなく、全国各地で人口減少の状況にある。そんな中で、外国人材だったり、外国人労働者を、移民政策を、“とらない”と日本政府が言っているが、今後どのように政策として考えていかなければならないのか、私たち自身の見方や考え方、ステレオタイプについても見つめなおして考えていかなければならない日が近づいていると感じている。

午後の部 「多文化共生社会ってどんな社会？」

【クイズ】

Q. 1 世界の人口は？

A. 約76億人 2019年11月20日の状況。急激に人口が増えている。

「地球は有限で増えたりしないのに、世界人口、工業化、公害、食糧生産、資源減少は幾何級数的な勢いで拡大しているため、私たちは破滅に向かって進んでいる。」

ドネラ・メドウズ（環境学者）『成長の限界 ローマ・クラブ人類危機のレポート』（1972年）

Q. 2 日本に在留する外国人の数は？

A. 約300万人（2019年6月末現在）

Q. 3 滋賀県に在留する外国人の最も多い国？

A. ブラジル人

⇒ リーマンショックは、全国的に人口の移動にも大きな影響を及ぼした。

県内の在留国籍別年齢別人口でみても、ブラジル人の子どもが一番多い。

ちなみに、永住者と定住者の違いは何か？

⇒在留期間の差。永住は無期限、定住者は期限あり など

永住者、定住者など外国人には選挙権はない。では、消費税は何のために使うこととされているか？社会保障や福祉のためだが、彼らは税金を払っているが社会保険に入れないといったことも起こっている。

移民と外国人労働者の違いはなんだろうか？違いは何か？

『国際移民の正式な法的定義はないが、移住の理由や法的地位に関係なく、定住国を変更した人々を国際移民とみなしている。3か月から12か月の移動を短期的または一時的移住、一年以上にわたる居住国の変更を長期的、恒久移住と呼んで区別するのが一般的である。また、正当な手続きをとらずに入国・滞在する「不法移民」、永住権や市民権を持った「合法的移民」というように、その性格によって区別される場合もある。』

山中信幸（2019）「移民・難民と多文化共生」『辞典持続可能な社会と教育』教育出版

『「移民」は外国人労働者に比べて、その国にずっと長く居る人たちのこと。それから、必ずしも働き手だけではなく、家族と一緒に定住した人たちも含む。つまり、その働き手の家族も含めて移民と定義する。』

内藤正典（2019）『外国人労働者・移民・難民って誰のこと』集英社

『外国人労働者政策の主目的は、社会・政治制度に吸収する必要のない労働者を移入しようとする政策立案者の要望に基づく。』

マイロン・ウェイナー著、内藤嘉昭訳（1999）『移民と難民の国際政治学』明石書社

「移民」と「外国人労働者」の違いはILOの条約に書かれている。

《ILO条約 第5条 移民労働者に関する条約》

『移民労働者の労働条件・宿泊設備・社会保障・その他に関して内外人均等待遇を行わなければならない。』

と、国際法上決められているので、日本政府は彼らを「移民」と呼ぶと、これに従わなくてはならない。

在留資格にはたくさん種類がある。永住者や定住者、特定活動などある。就労ができるもの、就労が認められない在留資格もある。留学生は週28時間以内のアルバイトは認められている。また、配偶者と子どもを呼び寄せられる家族滞在という在留資格もある。内藤先生の定義から言うと、家族を呼び寄せている場合は、「移民」と呼んでよいのではないかとも思うが、国はなかなかそうは言わない。また、ビザの発給（入国をしてよい）は外務省、入国を管理（許可・拒否する）については法務省で管轄が異なる。

外国から来ている人たちの呼び方の違いにも政治的な背景がある。日本政府は、表向きは外国人労働者を受け入れないと言いながら、手を変え品を変え受け入れ続けている。単純労働者は受け入れない、移民政策をとらない、留学生は外国人労働者ではない、技能実習生は国際貢献だと言っていた。しかし、技術を学び、帰国後母国で活躍するという人たちが、あれほど失踪するものだろうか…。

厚生労働省は、「ルールを守って適正に」と言っている。雇用離職時の届け出、外国人の受入れの際にはハローワークへ届けよう、適切な雇用管理をし、雇用環境の改善をするようになっている。内容としては、均等待遇、国籍を理由として賃金や労働時間、その他の労働条件について差別的な取り扱いとはしてはならないと明記してある。賃金の支払いについては、基本給、割増賃金等の全額支給、居住費などを控除する場合は労使協定が必要であることなどが、ちゃんと書かれている。

しかし、在留資格申請に関しては、以下のような事例が出ている。

不許可事例 1

ジュエリーデザイン科の専修学校を卒業し、コンピュータ関連サービスを業務内容とする企業と契約に基づき外国人対応、通訳・翻訳業務に従事するとして申請したが、履修内容と職務内容との関連性が認められず不許可となった。

不許可事例 2

本国で経済学を専攻した留学生が日本のホテルに採用され宿泊客の荷物運搬や客室の清掃業務に従事することになり申請したが、業務の内容が「技術・人文知識・国際業務」の該当業務とは認められず不許可となった。

不許可事例 3

企業が、外国人というだけで新卒の日本人よりも給料を低く設定したため、外国人本人の申請が不許可となった。

⇒これらの事例は、彼らが悪いわけではない。企業の配慮が足りなかっただけではないのか。なのに、日本で働こうとした外国人の申請が不許可となる実態がある。

特定技能の説明

技能実習で働いている人は、家族を呼び寄せられない。だが、世界人権宣言には「家族が共に暮らす」というのは権利として認められている。在留資格「特定技能2号」になると家族を呼び寄せられるようになるが、そうすると彼らは「移民」なのではないかと思うが、日本社会の仕組みとしては、人材としては受け入れるが、人としては受け入れないというのがあるのかもしれない。

【動画視聴】

転校生の自己紹介の様子。転校してきたのは、アフリカ系の外見を持つ「けいすけ君」。日本語での自己紹介の後、クラスメイトが彼に質問をする場面が映し出されている。

男子児童：「なんで日本語がしゃべれるんですか？」

けいすけ君：「日本人だからです」

クラス全員：「（大声で）ええー!？」

⇒ 先ほど日本人というのは、アイデンティティだといいました。でも、彼のアイデンティティを見かけだけで判断し、周りは認めていない。彼のように、どこに行っても「ええー」といわれる。「英語がしゃべれない」というと、「ええー」と言われる。日常的にこうしたことを受け続けていると、自己疎外に陥ってしまう。発言する側には、いじめている感覚はないし、傷つける気もない。でも、それがずっと続いた中で、彼はどんな気持ちになるのだろうか。日常的に遠慮していないですね。

【私の名前は】

私は、自分の「のぶゆき」という名前が好きではなかった。父の名前の一文字と、母が好きだった真田十勇士からとられた名前ではあったが、一時は自分で「しんすけ」と名乗っていたほど。でも、名前の漢字を尋ねられる際に、「すべての人が幸せになることを信じる『信幸』」と説明するようになって、だんだん好きになった。

では、これから自分の名前の由来などについて、グループの中で今朝一番早起きをした人から自己紹介をスタートしましょう。

名前をめぐる出来事

肥下彰男、阿久澤麻里子編著（2015）『地球市民の人権教育 15歳からのレッスンプラン』解放出版社

- ① 事例エピソードの書かれた紙を一枚ずつグループに配布。
- ② 前提条件と役割ごとにセリフを読み上げた後、ロールプレイを行う。

ロールプレイ 発表

出来事の概要 【ケース1】

在日コリアンの朴さんがアルバイトの面接で、店長から日本の名前にしてほしいといわれた。

グループ①

朴さん：「私がトランプっていう名前でも、田中と名乗れって言いますか？」

店長：「君は外見が日本人に似ているから…」

朴さん：「じゃあ、こちらで働くのを辞めます」

グループ②

店長：「日本の名前を持っていたら、雇ってもいいんやけどなあ」

朴さん：「ええ!？」

店長：「この辺、韓国の名前の子も少ないし、呼びにくいなあ」

朴さん：「店長は、どういえば呼びやすいですか？」

店長：「ぱく みじゅん君、ジュン君でいいか？」

朴さん：「日本人にもジュンっていっぱいいるから。ジュンでいいです。」

店長：「じゃあ、ジュン君と、君ハルちゃん、それで二人を雇うよ」

⇒ 折衷案というところですね。

出来事の概要 【ケース2】

来日間もない中国人家庭の保護者から、子どもが同級生に“変な名前”とからかわれるので、日本の名前をつくってほしいと親に訴えてきたことを、担任に相談に来た。

グループ③

担任： 「今日はどうしたんですか？」

児童： 「友達が、僕の中国の名前が変だという。弁当の中身がおかしいと悪口を言われる。僕も日本の名前がほしい。」

保護者： 「そんな子には、知らん顔したらいいといったけど、私は3年前に来日したが、妻と子どもは来日したばかりなので、子どもが言うとおりに、名前を変えた方がいいですか？」

担任： 「名前は変えない方がいいと思います。他の子どもたちが、名前や中国のことをいっぱい勉強していけば、あなたのことを理解してそうしたことはなくなると思います。」

児童： 「本当にいじめはなくなりますか？みんなと同じ名前がいい。」

担任： 「名前はとても大事なもので、先生は簡単に変えることはおすすめしません。」

保護者： 「子どもがどれほどいじめられているかわからないが、このままの状況が続くのであれば、名前を変えることも考えた方がよいかと思っています。」

担任： 「これから周りの子も含めて、中国のことの学習を取り組んでいくので、お父さんや李葉さんにもご協力いただいて、周りの子たちが中国のことについて理解を深めると子どもたちの理解も深まると思うので、もう少し待っていただけますか。」

保護者： 「わかりました。」

⇒ いい先生と出会われて、よかったですね。

グループ④

担任： 「そう、そんな思いをしていたのですね。名前は大事なものだし、とっても素敵な名前だと先生は思います。でも、お友だちから呼んでほしい名前があれば、言ってもらってもいいですよ。」

児童： 「とにかくいじめられたくないです。」

保護者： 「じゃあ、いじめられない方法を先生と一緒に考えたいです。」

担任： 「先生も、そう思います。李さんが中国で食べていたものも日本と違うのが当たり前なのと同じで、名前も違って当たり前だということをクラスで考えていきたいのですが、そういうお話をしてもいいですか？」

保護者： 「はい、いいです。あなたは、どう思う？」

児童： 「はい。いじめられなければ、いいです。」

担任： 「では、お友だちから呼ばれたいニックネームなどあれば教えてね。紹介してみますからね。」

⇒ 先生が共感的に接してくれるというのは、すごく気持ちがほっとしますね。

出来事の概要 【ケース3】

ペルーから来た子ども。名前が長いので、短くしてほしいと言われたが、「グレタ」と日本語表記を使うと、音からグレル（不良になる）を連想させ、いじめられないか心配だという。

グループ⑤

保護者： 「ペルーにいるときも、日本でも、家では『グレタ』と呼んでいるが、日本ではいじめられるかもと聞くと、不安で…」

グレタさん： 「日本語で不良になったという意味があると聞いてびっくりしました。どうしたらいいですか？」

同級生の母： 「確かに発音に引っ掛けて、名前をからかう子たちはいるかもね。」

グレタさん： 「今まで、グレタできたのに、名前を変えないとやりにくいのですか？」

保護者： 「母親としては、本人が一番どうしたいかが大事かな。」

同級生の母： 「そうですね。グレタと呼ばれたときのいじめられる可能性なども話して、本人に決めてもらいましょうかね。」

グレタさん： 「先生は私のことを心配してくれたみたいだけど、私はグレタでいきたい。」

保護者： 「そうね。気持ちはわかるけれど、学校でどんなことが起こるかということを話してから、考えてもらおうかな。」

グレタさん： 「はい。」

名前をめぐる出来事をいくつか紹介しました。私自身が自分の名前を変えようとしたというエピソードは、偏見や差別というのではなく、いわゆる親への反抗だったのですが、先ほどの出来事は私の事情とは違いますね。

では、こうした問題に直面している方たちが奪われようとしている権利は何でしょうか？

- 自分の名前はアイデンティティ形成に必要なものなので、アイデンティティを揺るがされる、否定される。アイデンティティを維持することができない。

これを国際法に照らしてみると、

国際基準（抜粋）《市民的及び政治的権利に関する国際規約（自由権規約）》

『第27条 民族的（ethnic）、宗教的又は言語的マイノリティが存在する国において、当該マイノリティに属する者は、その集団の他の構成員とともに自己の文化を享有し、自己の宗教を信仰しかつ実践し又は自己の言語を使用する権利を否定されない。』

子どもの権利条約 にもあります。

『第30条 民族的（ethnic）、宗教的若しくは言語的マイノリティ又は原住民である者が存在する国において、当該マイノリティに属し又は原住民である児童は、その集団の他の構成員とともに自己の文化を享有し、自己の宗教を信仰しかつ実践し又は自己の言語を使用する権利を否定されない。』



マイノリティ権利宣言 の中にも、民族的（national or ethnic）、文化的、宗教的、言語的マイノリティに属する人々の権利に関する宣言の中にも同様の「民族的、文化的、宗教的、言語的アイデンティティ（独自性）を保護しなければならない」と書かれている。

つまり、母語で自分の名前を表現することはアイデンティティの問題であり、言語権の問題でもある。言語権が守れないということ。

小中学校の生徒に「なぜ英語を学ばなければならないか？」と問われたときに、どのように答えるか？

では昨今、小学校でも英語の必修化というものもあるが、生徒になぜ英語を学ばなければならないかと聞かれたとしたら、どう答えますか？

参加者からの意見：「文科省が決めたから」「グローバル化の時代や」「世界に求められているから」「英語もしゃべれなかったら就職もできないぞ」など。

今世界でどのぐらいの言語数があると思うか？ 7097言語あるといわれている（2015年版 Ethnologueより）。多くの学者によると、3千を超える言語が次の世代にはなくなるといわれている。世界で最も話されている言語TOP10（母語だけでなく、第2言語、言語習得者も合わせた数字。）1位は英語15億人、続いて中国語11億人、ヒンドゥー語6.5億人、スペイン語4.2億人、フランス3.7億人、アラビア語、ロシア語、ポルトガル語、ベンガル語、ドイツ語となっている。

母語が英語の話者が4億人、第2言語として使っている国、例えばインド、シンガポールなどで3～5億人、学んで話せるようになった人が5～10億人と言われているので、英語話者はおおよそ12～19億人といわれている。いろんな民族が話している。だから、英語を学ばないとならないのか…。しかしそれでも、世界人口の2割であり、実際のところ、その他8割の人々は英語を話さないことになる。なのに、私たち日本人は、世界では英語が普及していると思い込んではいないだろうか？

ある機関が、言語力ということでデータを出している。①地理力 ②経済力 ③コミュニケーション力 ④知識・メディア力 ⑤外交力 の項目から世界の中で最強の言語を数値化したランキングがある。

- ① 地理力…その言葉が旅先で通じるか
- ② 経済力…経済に参加できるか
- ③ コミュニケーション力…会話に交わる力
- ④ 知識・メディア力…論文で発表したりできる力
- ⑤ 外交力…国際関係に関わっていく力

やはり1位は英語、2位中国語、・・・そして、8位に日本語。日本語もなかなか上位につけている。日本のように、一つの国で同じ言葉を使う人たちが集中しているのは世界的には珍しい。言語力として、日本語も結構力がある。

順位	言語	スコア	話者数 (億人)
1位	英語	0.889	(1・1・1・1・1)
2位	中国語	0.411	(6・2・2・3・6)
3位	フランス語	0.337	(2・6・5・5・1)
4位	スペイン語	0.329	(3・5・3・7・3)
5位	アラビア語	0.273	(4・9・6・18・4)
6位	ロシア語	0.244	(5・12・10・9・5)
7位	ドイツ語	0.191	(8・3・7・4・8)
8位	日本語	0.133	(27・4・22・6・7)
9位	ポルトガル語	0.119	(7・19・13・12・9)
10位	ヒンドゥー語	0.117	(13・16・8・2・10)

とみてくると、授業で英語を学ぶのは、最強言語だからという理由もあるかもしれないが、日本語でちゃんと論文が書けるようになってから英語を勉強するのもよいのではないだろうか。私たちは何語を用いるべきなのか？—日本語をやるのが一番いいのではないかという思いにいたるわけです。

『ホンモノ英語』というアメリカやイギリスを中心とした本場の英語を勉強するのが望ましいのか、『英米追従英語』というアメリカ・イギリスの価値観を教育システムの中に取り入れる欧米中心主義のものか、『国際英語』という国際コミュニケーションの手段として英語を用いる立場は、人間から言語を独立した「ツール」・「道具」とする考え方。「英語支配」の視点というと、英語はコミュニケーションの道具ではなく、自分の言語で自由にコミュニケーションできる権利を脅かして、言語が堪能な人々から言語差別を引き起こす「支配」のための言語となる。つまり、英語が話せないことで、自分に対して否定的な目を持たせてしまうのではないか。

では、なぜ英語を学ぶのかというと、文科省が決めたからなどの声もありましたが、
政府レベル… お上が決めたこと
社会レベル… 英語が使えると何かと有利なのではないか
個人レベル… 何語を使うかを決めるのは自分自身 という考え方があると思う。

さきほどの名前についても、個人レベルで決定できてよいはずのものなのかもしれない。個人として英語が必要だから学ぶというのは問題ないが、問題なのはすべての人にとって英語が必要なのかということ。英語嫌いの生徒にも必要なのか、国際社会に乗り遅れるから、良い仕事に就かなくてはならないからと、英語に矯正したり、強制したりしているのかもしれない。

戦前戦後すぐの頃、すばらしい国語の先生というのは、どんな先生だったか知っているか？それは、左利きを右利きに直す先生という価値観があった。それも左利きの文化を矯正/強制していったのかもしれない。異文化理解のためには必ずしも英語が必要かということ、そうではない。英語だけではない。言語の多様性を尊重すること、言語は権利という視点で、権利・アイデンティティを守ることも大事なことのかもしれない。

タレントの渡辺直美さんが、ファッション雑誌の記事で自分はトリリンガルだと言っていた。母が台湾人で日本語がしゃべれず、家庭内での会話は台湾語、彼女自身は日常的な日本語は話せるが学校での授業にはついていけない状態だった。日本語も英語でもコミュニケーションには不十分だということをその記事でカミングアウトされていた。

言語を矯正/強制する中では、その子、その人らしさをどんどん奪っていくような社会だったり、学校教育であったりするような、英語の必修というところからもそういう危険性をはらんでいるのではないかと考えられる。英語一辺倒になると、英米の価値観に染められる危険性もあるし、多文化、多言語、共生社会と言いながら、英語一辺倒になってしまう。多文化、多言語、共生社会にはならないのではないかと。**言語というのはアイデンティティの問題、権利の問題。**異文化を尊重するとか、異文化理解、国際理解、他者理解というのが十分にできなくなってしまうのではないかと。

そこで、あらためて「グローバル人材」ってなんなのでしょう？「人材」という言葉は、個人的には嫌いではあるのですが。政府レベル、社会レベル、個人で求めているものとは何なのかと考えながら、名前というものを通して、もう一度、アイデンティティの問題と、言語権のかかわりとして考えることも大事だと思います

【ワークショップ「ビン君に何が起こったか？」】

開発教育研究会編著（2012）『身近なことから世界と私を考える授業Ⅱ』明石書店

写真がスクリーンに映し出され、「これは何の写真でしょうか？」と問いかけられた。



（写真提供：難民事業本部）

これが日本にやってきて、大きなインパクトを与えた。

答え：インドシナ難民がボートに乗って海を越えてきている写真

全長3メートルほどの木の船。あの船の中に大勢の人たちが乗っていた。花火を見るためにこのような船に乗るのであれば、多少は我慢できるかもしれないが、命からがら、インドシナ難民の方たちの出身ベトナムは社会主義の国なので中国

国籍の船に見つかり、強制的に国に連れ戻される可能性もあるので、船底などに隠れなくてはならなかったという。これだけの深さの船なので、非常に揺れるので船酔いする中、1週間なり10日なり、1か月なり、食料も持ち込めなかったのにどうやって生き延びてきたのか。私の知り合いから、おばあちゃんが作ってくれた干した朝鮮人参をかじって10日間ほど過ごしたと聞いたことがある。そうして、1970年代に来られた人たちがいるということです。

これは、日本国籍の船に保護されている様子。こういう状況を経て、インドシナ難民として日本で暮らしている。一時期は2万人おられた。日本の政府の支援も終わり、それ以上増えたところはカウントされなくなった。関西には、姫路に定住促進センターがあって、支援を受け、その後各地へ移られていった。現在、その跡地には病院があるが、ベトナム難民の碑がある。現在も、関西や関東・横浜などに住んでおられる。



（写真提供：難民事業本部）

ではこれから、難民の方たちの生活を疑似体験的に見ていただこうと思う。インドシナ難民の家庭の中学生ビン君の日常生活を垣間見てもらおうと思う。

状況設定の説明

では、ここは淡海中学校としましょう。みなさんは中学3年生の担任。新任ではあるが3年生の担任を校長に任せられた優秀な先生です。もちろん一人では負担が大きいので、数名でチームとして対応しています。ビン君は野球を頑張っていて、スカウトの目に留まるほどの実力がある。ところが、連休が終わった後、ビン君が突然学校に来なくなった。電話しても、だれも出ない。しばらくすると、ビン君は学校には出てくるようになった。「どうしたのか？」と尋ねても、何も答えてくれない。このままでよいかとも思ったが、やはり、ビン君のことが気になるので周りの人たちから状況を聞き、調べてみようということになった。

会場中に以下の人物のコメントが書かれた紙が入った封筒が貼りだされている。これから、それぞれの人にインタビューを聞き出すため、グループの代表が封筒に入ったコメントの紙をグループの机に持ってきて、書かれている内容をグループで共有し、ワークシートの問いに答えていく。その際、実際に人物がいると見立てて、「いつもお世話になってます」などのあいさつをするように。

1回につき一人のコメントの紙を持ってくる。終われば、元の封筒に戻して、次の人のコメントを取りに行く。その際、封筒に入っているアイテムがあれば、一緒にグループの机に持ってくる。

では、登場人物全員から話を聞いてみよう。



登場人物

- ビン君の父親 トアンさん
- 弟タン君の友達
- 弟タン君の担任
- ビン君の友達
- ビン君のバイト先の社長
- ビン君に母親 ミーさん
- 野球部の顧問の教師



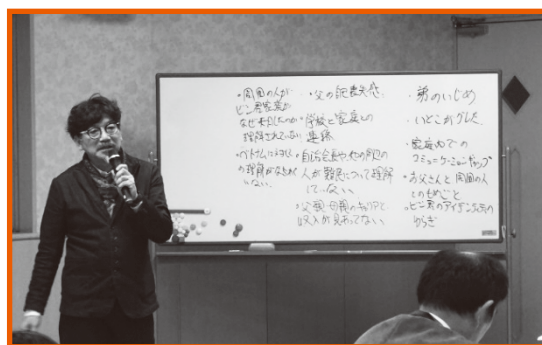
ワークシートに書かれた問い：

ビン君の友人関係、家庭環境、アルバイトの内容・印象、ビン君の夢、なぜ日本にいるのか、周囲にある問題

グループ発表

ビン君はどんな問題に直面していたのだろうか？

- 弟がいじめに遭っている
- いところが暴走族に入った・グレた
- 両親・家族内でコミュニケーションギャップがある
- お父さんが野球部や自治会の人ともめている
- ビン君のアイデンティティの揺らぎ
- 父の自己喪失感
- 学校と家庭との連絡・連携がなかなかうまくつかない 言語の問題もあるだろうが。
- 自治会長や保護者の方が、ベトナムの問題・難民についての理解ができていない、どういう経緯で来ているのか理解できていない
- 両親の給与が低い キャリアが活かされていない



インドシナ難民は条約難民ではなく、アメリカなどの働きかけを受け、79年に閣議決定されて受け入れたという背景がある。

国旗についての話は、甲子園にも出場した東洋大姫路高校のアン投手の実話に基づいている。大使館の人たちを招いたという話は、大阪市平野区の事例で、実際にあった事例を取り入れている。

この問題を学校の先生として、どうアプローチするかという設定で周囲からの話を聞いてもらったが、実際、学校教育は地域との連携や、プラットフォームとなり地域連携することが積極的に行われている。

では、皆さんにはそれぞれの素の立場に戻っていただいて、こうした問題について、どのような対応策のプランが立てられるか、グループで模造紙に書き上げていただきたい。

グループワーク

グループごとに作成したプランについて発表

グループ①



中心に学校を据えて、学校では子どもたちのいじめの問題もあったので、生徒向けにベトナム理解や日本にきている背景についての学習を行う。PTAの活動などで、親子でも理解を深めることも必要。地域では、それがつながっていったら、食文化交流や防災など、住民同士が協力し合えるような枠組みづくり。そして、国際協会も絡んで出前授業や日本語サポート、生活情報の提供など、自治会だけではできない内容をサポートしてもらえるとよい。行政からも生活支援、人権啓発、雇用促進などについて関わってもらいたい。

学校としては連携しながら、お互いの理解を進めたり、彼らの家庭を支えたりできる枠組みが出来たらよいと考えた。

講 評

行政がどのように絡んでくるかというのが大事。

国旗について補足。今回封筒に入っていたのは南ベトナムの国旗だった。現在のベトナム国旗は北ベトナムの旗。野球の試合で、この南ベトナムの国旗を応援に使ってれば、ビン君の父は気を害さなかった。以前は小学校の運動会などで万国旗を飾っていたが、国旗は民族的なアイデンティティを反映しているものなので、教育の現場であんなに乱暴な使い方をするのは配慮が足りないといわれても致し方ないのではないかな。

食文化の面でいうと、ベトナムには弁当の文化もなく、日本の弁当でもすぐに洗わないと匂ってくる。今回ニョクナム（魚醤）を持ってきたが、こうした調味料だとさらに匂いもきつくなる。滋賀ではブラジルの方が多いらしいが、ブラジルでは、食事時に甘い炭酸ジュースを飲まれる。これを水筒に入れて持ってきたりすると、これをきっかけにいじめに発展することになる。小さなことからしっかり配慮したり、周囲の人たちの感受性を豊かにしたりする必要があるだろう。



グループ②

地域と学校でそれぞれ何ができるかを考えた。自治会の力を借りて、ベトナム難民についての理解をすすめるための研修、日本語教室の開催。地域イベントへの参加を促し、日本人とベトナム人の交流をすすめていく。ベトナム人のコミュニティへのサポートなど。学校では、多文化共生などの授業、PTA研修、野球部の保護者会への研修、学校からの通信にベトナム語対応、学校標示を多言語で対応する、ポケットーク（翻訳機）、支援員、母語スタッフなどがあればよいなあと考え、このプランを立てた。

講 評

標示や学校からの通知を多言語にするというのは、素敵ですね。どれだけ行政が協力するかだと思いますが。神戸にはインドシナ難民が多く暮らし、「国際都市 神戸」などといわれるが、ベトナム語の表記はない。韓国語・中国語・英語ぐらいで、観光客中心。「多言語化」というのは、言葉が独り歩きしているかもしれないが、実際にはなかなか充実させられていない。なぜだろうか？ 私たち自身も考えていく必要があるのかもしれない。



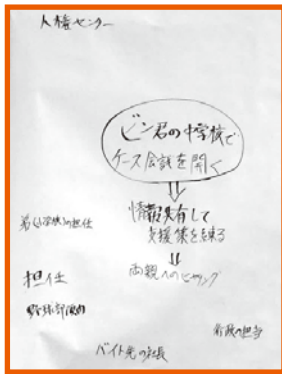
グループ③

私自身が教員なので、まずいじめを解決しないとできないと考えた。ビン君の中学担任から小学校の先生に連絡してもらい、早急に家庭訪問をして保護者へ説明に行き、学校では生徒たちにいじめはいけないと徹底する。それで弟の件が落ち着くと、ビン君も楽になるだろう。

いとこがぐれたのは、もう仕方がない。家庭内でのコミュニケーションギャップについては、担任がビン君とコミュニケーションがとれていれば家庭の状況も把握できるのでケアできるだろう。自治会長や保護者会には、地域のベトナム人について勉強会やイベントを通じてコミュニケーションを図るなど検討していく。

講 評

先ほどのグれたのは仕方がないという発言は言葉の綾でしょうが、実際に非行に走る子どもたちは子どもの貧困の状況に置かれた子どもたちとなっていることが多い。港湾労働者が多いところなので、日雇いの人が多い環境にあって、そうになっていく。ベトナム人コミュニティの中でも経済格差が大きくなっている。日常言語がついていけないからと積み残されてしまっている外国にルーツを持つ子どもたちも多い。学習言語がついていかない/についていけない、親の経済状況も悪いという中で、どんどん取り残されて行って、どうしようもなくなり、先の見通しも立たない人たちが出てしまうのも然り。これは、外国人に限ったことではないが、オレオレ詐欺の受け子なども、そうした貧困の状況に置かれている子どもたちが、そういうところで働いている現状もあるのが事実。その子たちは、年齢層の高い方たちはお金を持っている。自分たちは働いても働いても食べられないのに、あんな歳にとって、金持っているんだからいいじゃないかという勢いになってしまう。多文化共生の話から外れてしまったが、同質性があるのではないかと思います。



グループ④

ビン君の中学校で何ができるかというところから話し合った。中学校だけで解決できる問題ではなく、ご両親の経済的負担や地域の問題、人権感覚の問題など多岐にわたっているので、まず何ができるかというと、中学校ではケース会議というのがよく開かれるので、関係機関の人を呼んで、それぞれが持っている情報を共有するところから始め、支援策についてみんなで話し合って、それぞれの強みを生かした分担を決める会議を開くのが最初のステップかと思う。

次に、当事者への相談もなく保護者会などを行うと、ご両親がそんなことは話してほしくなかった、となると二次災害になってしまう可能性があるのでは、まずはご両親の思いを聞きながら支援策を提案する。その中で、ご両親や本人から了承が得られたら、地域の方に説明したり、各機関で支援策に取り組んでいけば二次災害は少なくてよいと思う。警察、自治会長など、どこまでの関係者を呼ぶのかなどは相談が必要だが、支援のネットワークを中学校が中心になって広げていけるとよいと思う。

講 評

「チーム学校」という言葉自体は、「チーム医療」という言葉がもとになり、学校と言い換えたと言い出した本人がおっしゃっていたと聞いた。専門的な立場やネットワークを持っている人たちが集まって課題解決に向けて話し合うことは、とても大事だと思う。



グループ⑤

地域、学校、家庭、本人ができることについて分けて考えてみた。まず地域では、これほどベトナムの人が暮らしている地域なのであれば、ベトナムや難民について、その人たちを取り巻く状況を自治会で学習する、交流会を持つ。そういうことを積極的に行う旨を回覧板などに書いて、やる気を見せていく。日本語教室を開催したり、地域の人やビン君はベトナム語が分からないので母語教室を自治体で開催することも考えられるのではないかな。そうした取り組みを自治会で実際に行っておられる例も話に出た。学校では、定期的に家庭訪問をすることで、直接出会えば言葉は通じなくても、お互いに分かる部分はできてるのではないかな。言葉の壁があるので、通訳や翻訳、母語支援などは学校や教育委員会がしていくことが大事。

ベトナムに限らず、外国の文化にはいろいろな文化、人、違いがあるという雰囲気を中学校の生徒たちが持てるよう全校へ発信する。本人への個別の教育相談の時間を作る。学級の雰囲気づくり、保護者にも状況説明、野球部でも全員で話す。

家庭では、大事な子どものことなので気持ちを切り替えてもらえたらいいかな。両親が日本の言葉や文化に触れる時間、地域の母語教室に行ってみようと思ってもらえたらいいな。定期的に家族でくつろげる時間が持てるとよいな。本人には、厳しいかもしれないが、夢をあきらめないように、自分の思いを勇気をもって先生なり友達なりに発信してもらいたい。

講 評

夢をあきらめない、困っていることを言えるということはすごく大事だと思う。SDGsでは「誰一人取り残さない」と言われている。誰一人取り残さない社会を作るためには、「私は困っている」ということが言える、それを受け入れてもらえる社会というものを作っていく必要がある。また、そう言ってもいいんだと信じられる、そんな関係性ができることが大事だと思う。

【仲間づくり】

- ・ 椅子のみで円形で着席する。
- ・ 目を閉じて、言葉を発せずにその場に座るよう指示。
- ・ ファシリテーターが、色シールを一人ずつに貼り付けていく。
- ・ 全員に貼り終えたところで、「今から合図をしたら、目を開けていただきます。立ち上がって、絶対に言葉は発せず、**仲間を見つけて、仲間ごとと一緒に座りましょう**」

では、ここからは言葉を発していただいても結構です。

Q. そちらは何のグループか？

→ 黄色いシールが貼られている、ズボンをはいている など。

Q. (シールが貼られていなかった方に対して) どんな気持ちですか？

→ 招いてもらったので、シールがついているのかと思った。なんだろう？という不安な気持ち。
呼んでもらったので、ありがたかった。

Q. なぜ、この方を呼んであげたのですか？

→ 独りぼちはかわいそう。

どう見ても独りになるとわかったので、仲間になるための共通項を探した。

→ 一旦違う違うといわれたのに、そのあと、仲間に入れてもらえた。

多数派のグループの人は自分の仲間が見つかると、安心して思考停止の状態になる。様子もわからない自分は安心した状態にあるから、そうした人（少数派）のことが目に入らない／目に入れないようにしてしまう。自分たちの仲間として、安住してしまう。私は、「シールで分けてください」とは言っておらず、「**仲間をさがしてください**」と言っただけ。しかし、会場の多くの方が、パッと見た印象で自分たちはそのルールに従わなくてはならないといつの間にか思い込んでしまった。こうしたルールに乗っかっているということは、この世の中にいっぱいあると思う。では、そのルールはだれが作ったのか？為政者が作ったのか？ある権力者がシールを貼っているのか？いつの間にかシールを貼られて、種別を分けてしまっているそんな自分が日常的に、自分の中にもあることを感じてもらいたかったので、このアクティビティを体験してもらいました。

【絵本紹介「島 よくある物語」読み聞かせ】

アルミン・グレーダー（著）畔上 司（翻訳）「島 よくある物語」（日本語）飛鳥新社（2015）

〔概要〕

ある朝、島民たちが浜に出てみると、「男」がひとり流れ着いていた。はじめは追い出そうとしたが、荒れた海の怖さを知っている漁師の進言を受けて、その「男」を受け入れることにした。しかし、島民たちは誰も打ち解けようとはせず、人里離れたヤギ小屋に隔離し、食事も仕事も与える者はいなかった。やがて、男の存在自体に不安を感じるようになった島民たちは男をついに……。

この絵本で描かれている絵では、日常生活のその裏で子どもたちがみな同じ格好をしている。作者はこの絵から何を言いたかったのだろう。この本の原題は「島」なのだが、副題に「よくある物語」とついている。これは何を意図しているのかということも含めて考えていく必要があるのかと思う。

【ふりかえり 感想共有】

- 国際教育ワークショップという、外国のこと題材にすることがあるが、国内で起こっていることで、生徒にこうした内容を実際に行うには力量がいるなと思った。
- 教師をしている。外国の子どもたちが、たまに学校に在籍するようになり、いろんな国のことや背景を知ること大事だと感じてはいたが、今日のワークを通じて自分が持っている観念が限定されたものと再認識することができ、視野を広げていただけた。絵本では、ちょっとしたきっかけが、大きく雪だるまのようになり、間違ってしまうと、とんでもない方向に進んでいくこともあるのだと思った。
- 地域の日本語教室のボランティア、民生委員、児童委員をしている。地域での理解というのは必要だと感じた。日本語教室でも感じている。多文化共生というものは気になっているが、範囲が広く、理解するというの一言では言えない。もっと深く考えて、自分の中での多文化共生の定義をもう一度考えていきたいと思うきっかけになった。
- 多文化共生も知らず知らずの間にステレオタイプを抱いていることに改めて気づいた。知らず知らず、悪気がないことこそが怖い、もっと敏感にならないと、と気づいた。
- 今日、「国際人って何だろうか？」という問いかけがあったが、思い出した言葉がある。以前に勤めていた学校で、平田オリザさんという脚本家で、大阪大学医学部の人間関係のトレーニングを担当されているのだが、生徒たち相手にワークショップをしてくださった。最後に、高校生たちへのメッセージとして「君たちは、やがて世界のリーダーとして活躍してもらわなくてはならない人材だ。リーダーたる必須は何だろうか？国際人とは何だろうか？一発言権の弱い人たちは、つつい隠れてしまう。そんな人たちが地球の裏側にいるかもしれない、社会の隅っこに追いやられてしまうかもしれない。そうした人たちの意見を拾っていけるような人になってほしい」という言葉を思い出し、また伝えていかないとならないと思い出させていだけた。

⇒ さきほどの絵本の中で、男が発したのはたった一言、「おなかが減った」のみだった。

- 多文化、多国籍、グローバルそんな言葉は、本当に身近になっている。私は市教育委員会の母語支援員をしているが、ビン君のような子どもは本当に身近に存在している。困っている、深刻なことを抱えている。ビン君のような子どもが見えないところにたくさん隠れているので、教育現場で少しでも自ラ力になればなと思っている。
- 最後の絵本が印象に残っている。子ども向けの絵本ではないなと思った。内容はすごく重たいものを持っている。私たちの社会をとらえているなと思った。すごくいろんなことを考える要素をもらえた。
- 外国人労働者、とくに実習生、特定技能の人などに日本語を教えている。田舎なので、外国人労働者の問題は、そこに住んでいる人たちの問題である。介護人材8名に日本語を教えているが、この人たちが来なくなったら地域の介護はつぶれてしまう。牧場にベトナム人実習生が来なくなったら牛乳が出荷できなくなる、コンビニで夜働いてくれる人がいなくなったら、コンビニを閉じなくてはならなくなるよと地域の人たちに言っている。表裏一体の関係にあるので、外国人労働者をどうしていくのかは、私たちの生活そのものにつながっているということを常日頃言っているが、もっと声を大きくしていかなければならないと感じた。
- このワークショップには、知らないことを知ることが面白くて例年参加している。今日のテーマは外国ではなく人権。一言でいうと、寛容さが大事だと思う。
- 以前、ある地域でボランティアの日本語教室に関わっていた時に起こったいろんなことを今日は何度も思い出す体験をした。最初、コミュニケーションが成り立たないと、こちらもサポートしているはずなのに、もどかしく、イライラしてしまったことがある。相手のこともわからないし、そうすると相手のことを個人というよりも、この人フィリピン人だからとか、中国人だからと考えてしまったり、さらには「外国人だから…」と自分の気持ちを抑えたいがために、より大きなカテゴリーでくくってしまっていたことを思い出した。

- 一番興味をひかれているのは「共生」。外国人だけでなく、日本人とも共に生きていくにはということ。自分が今やっていること、一つの隅っこを照らしていることに徹していききたいと、知識としては勉強するが、やることは一つ、あるいは二つぐらいかなと思う。
- 全然今まで出会ったことのない人と、共通のテーマで語り合う良い機会を得られた。シールでのグループ分けのワークで、仲間がいた時に安心感を感じた自分がいた。中学生などはもっと感じているのだろうと身をもって感じる事ができた。本能の中で違いをどのように受け入れていくかジレンマもあるが、子どもたちに教育の場でどう返していけるかと考えていきたいと思った。
- ワークショップに参加して学びながら、自分も知っていながらも、どこかで固定観念を持っているな、その都度その都度、もっと気にかけなくてはならないと、こういう機会のたびに再認識する。子どもたちと接することで常に考えなくてはならないと気づかされ、改めて感じさせられた。
- 高校教員をしているが、カタカナの名前の生徒が増えている。日本語がわからない保護者の対応も増えている。現場の教員は何ができるのかと考え今日は参加した。ビン君のケースも、あるあるだなと思った。実際問題、家庭訪問に行く必要があると感じているが、来てほしくない家庭もある。教員ができることは少ないと思うが、小中高とつながって考えていかなくてはならないと思う。
- 40数年前を思い出した。彦根には当時20数名ボートピープルが住んでおられ、たまたま友達になった。14,5年住んでおられたが、子どもが大きくなり教育費がかかるようになって、先にアメリカに難民として渡っていたベトナム人を頼って行くということだった。難民に関連して、先日アメリカに行った際に、中国系の方が実は天安門事件のときに追われて逃げてきたと話してくれた。私の記憶では当時追われた人は数千人いるといわれていたと思うが、渡航費をアメリカ政府が出してくれたとその人が言っていた。なので、ベトナム難民を受け入れた時にも、日本政府やアメリカ政府がサポートしたのではないかなと思う。あの時、ベトナム人に渡航費を出したことをトランプ大統領は知らないのではないかな、だからメキシコに壁を作ろうとしているのではないかなと思う。
- 湖南省で小学校教員をしている。リトルブラジルといわれるほど滋賀では最も外国人が多い市の一つである。目の前のブラジルやペルーの子どもたちを何とかしたいと思い続け20年目になる。今日学ばせてもらい、改めてその子たちのアイデンティティが揺らがないようにしていくこと、日本の子も外国籍の子にも同じで、明るい展望を見せることが自分の仕事だと思っている。明るい展望のためには、アイデンティティの揺らぎがあると（よくない）、ビン君のワークにあった「ベトナム人は何をやってもダメなんだ」という発言が反芻している。また今日、保護者のアイデンティティも含めて考えていく必要があるなと学ばせてもらった。
- 今日唯一学生として参加した。卒業論文で外国籍の子どもたちの支援とスクールソーシャルワーカーをつなげることを行っていて、参考にしたいと参加した。山中先生の話や活動を通して、自分が知らなかったことをはじめて知ることができたし、自分を中心にして見ているから、外国籍の子どもたちは外から来た子という、外と内という、知らずのうちに自分にも意識があったのだと気づいた。相手のことを知りたかったら、自分のことも知ってもらう努力がいることも感じた。子どもと関わる仕事に就く予定なので、そうしたところを意識して、論文の方も頑張りたいと思う。



本日は長時間となりましたが、お互いに拍手をして終わしましょう。

2019年度「国際教育教材体験フェア in 滋賀」報告

日時：2019年8月9日（金）13:00～16:45

会場：ピアザ淡海 203・204会議室

参加者数：57名

主催：（公財）滋賀県国際協会

共催：Glocal net Shiga

協力：JICA関西

分科会1：はじめの一步から

■講師：国際教育研究会 Glocal net Shiga 大槻 一彦さん

■参加者：36人

1) こんな人いませんか？ ビンゴ（自己紹介）

配られた紙のタテ3×ヨコ3＝9マスに書いてある項目に対して、会場内を回りながら、何か知っている人、何か意見のある人を探し出し、質問する。

何か回答が得られたら、そのマスに、その人の名前ともらった回答を書き入れます。回答が入れられなければ、別の質問をするか、あいさつをして別れ、別の方を探します。

タテ・ヨコ・ナナメに一行（3つ）揃えば、「ビンゴ！」と声を上げる。



9項目：健康に暮らす、不平等なことをなくす、エネルギーを節約する、仲の良い集団にする、ものを大切に使う、住みよいまちをつくる、食べ物や水の無駄をなくす、時間の使い方に工夫している、地球環境を守る

2) 開発教育とは ミニレクチャー

国際理解教育と開発教育について解説。

3) フォトランゲージ

各グループに配られたネパールの写真を見ながら、その写真から見えることとSDGsの17のゴールとのつながりを考えた。

【写真】

◆青空教室の子どもたち…笑顔が素敵

◆両腕のない青年…………カトマンズで絵を描くことで有名になった青年
幼少期に腕を落とされたといわれている

◆夫婦が語りあう様子……国内の格差についても見え隠れする
本当に持続可能なのか？



◆ポーター（荷物運び）…一日働いて数百円 頭、肩、腰に負担が大きい

今ネパールでは、空前の出稼ぎブームで、マレーシアに数十万人が出稼ぎに行っているという

◆物乞いの少女たち……ここに映っているのは、元締め的女性と少女たち

子どもたちは搾取される対象となりやすい

◆給水所の風景……なぜ水くみに来ているのは女性ばかりなのか？

➤フォトランゲージを行う際のポイントは、あまり多くの写真を見せすぎないこと。少なく絞り込んで、できるだけ一枚の写真から学びを深めることがコツ。

➤使う写真についても、例えば今回ネパールの貧困に焦点を当てすぎると、偏ったイメージを与えかねないので、普段の普通の暮らしがあることも併せて伝えるよう配慮した。

4) SDGsとは？

ミレニアム開発目標は半分ぐらいしか達成できなかった。しかし、どの目標も途上国の課題であり、先進国にとっては支援する立場であったこと、当事者意識がなかったことが失敗の原因の一つだったといわれている。2015年に国連は持続可能な開発目標SDGsを考えた。もはや途上国の問題だけではなく先進国にも直接かかわる問題が広がり、深刻化してきたため、ようやく世界が一丸となって取り組んでいかなくてはならないという姿勢が見えてきた。2030年までに17の目標、169のターゲットを達成する。地球上の「誰一人取り残さない」となっている。75億人全員で取り組むという意味もあるそうだ。

5) ウーリーシンキング

本来は、毛糸を使い、関連性をみつけながら実際に絡み合っていくアクティビティだが、今回は、模造紙上に色マジックを使って視覚化することにした。

- ① SDGsのゴールを示すロゴのカードを模造紙いっぱい輪になるように貼る。
- ② それぞれのゴール（カード）と関係のあるゴールを、グループのメンバーで理由を考えながら探し、みんなで合意できれば、それぞれのゴール同士を色マジックで線を引きつなぐ。
- ③ この作業を繰り返し行う。



さいごに、ワークショップではファシリテーターは教えず、導く役割。参加者同士が学びあう。まとめ・振り返りがとても大事で、学んだことを互いに落とし込むことが重要。ファシリテーターの心得として、ファシリテーターは、ねらいや意図をしっかり持つことが大事。効果は非常に高いが、決して万能ではないと考えておくこと。また、教えた気持ちは抑える。なぜなら、答えは参加者の中にあるから。ぶっつけ本番なので怖がる人がいるが、十分な準備と振り返りをして、むしろ楽しめばよいと思うと締めくくられました。

分科会 2：大学生と一緒に考えるSDGs（入門）

■講 師：アイセック滋賀大学委員会 山本 康夫さん（JICA滋賀デスク）

■参加者：19人

1) グループ内自己紹介

アイセックのメンバーが各テーブルに入り、ファシリテーターを務めた。

2) AISECの紹介

海外インターンシップ事業の内容や目的について説明。



3) フォトランゲージ

設定された写真を見てどう感じたかを、グループで共有。

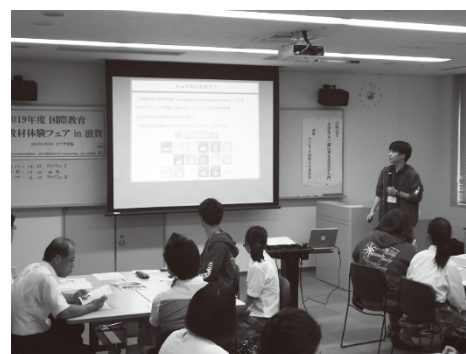


4) SDGsについて考える

SDGsとは何かについて、解説。

5) グループワーク SDGs を知ろう

- 「特に大きな課題だ、解決しなければ」と思うSDGsのゴールを3つ選ぶ。なぜ、それを選んだかについてもグループで共有する。
- グループでゴールを1つに絞りこむ。
- そのゴールに対して考えられる課題を挙げ、他のゴールとの関係性についても考える。



6) まとめ SDGsを「自分ゴト化」しよう

SDGs達成のために、明日から具体的になにをするか？今日出てきた課題解決のために、日ごろから自分たちにできることについて、意見交換を行った。

SDGsを「自分ゴト化」し、日々の行動につなげる。

分科会 3：「ブラジルボックス」「ここは何色？」を活用して授業をつくる

- 講 師：国際教育研究会Glocal net Shiga 川崎 功さん
(高島市国際協会会長、元小学校長)
- 発表者：甲賀市立貴生川小学校教員 増田 大次郎さん
- ゲスト：滋賀県国際交流員 ガブリエル ロッピーさん
- 参加者：28人

1) ワークショップ プチ体験「ブラジルボックス」

滋賀県国際交流員（ブラジル）のガブリエルさんから、「ブラジルボックス」を使った出前授業のデモンストレーションと、その際に子どもたちに伝えたいメッセージについてプレゼンテーションがあった。



2) ワークショップ プチ体験「ここは、何色？」

滋賀県国際協会発行の教材「ここは、何色？」のデモンストレーション。急遽、参加者の中から、外国語ができる方に「生きている辞書役」として協力いただいた。

12言語で色の名称が書かれた情報シートの中から読めない文字を、生きた辞書役の方から直接教えてもらったり、ポスター型辞書から探し出したりして、何色と書かれているかを見つけ出していく。

何色かわかったら、所定のマスに色を塗りこんでいくと、図柄などが浮かび上がってくるアクティビティ。



3) 実践事例報告 「甲賀市の多文化共生のために」

甲賀市立貴生川小学校の事例より増田先生による発表。

担任している4年生に外国人の児童が転入してきた。日本人児童と遊んでいるときにケンカになってしまったことをきっかけに、多文化共生について考える単元に取り組むことにした。

まず海外に触れる、興味を持たせることからスタートしようと「ブラジルボックス」の出前授業に来てもらった。そこで、ステレオタイプとは違う実像に触れることができた。

続いて、言葉が通じない体験として「ここは、何色？」の活動を県内在住の外国人ゲストを招いて実施した。ゲストとの交流を通じて、児童自身が言葉の通じない体験をすることで、言葉の通じる安心感を覚えたり英語以外の言語と出会ったりすることができた。

ゲストにインタビューする中で、彼らが日ごろ困っていることを聞き、グループごとにテーマ（学校、病院、役所など）を設定し、冬休み期間中に調べ学習（フィールドワーク）をそれぞれ行った。そこから、「自分たちには何ができるか」について、グループでポスターにまとめ、発表を行った。

この学習を通して、子どもたちにとって「みんな」という単語が含む意味が変わったと感じる、との発表だった。



分科会 4：カードゲーム「2030 SDGs」

■講 師：国際教育研究会Glocal net Shiga 吉野 欽哉さん（滋賀県立守山高校教員）

■参加者：28人

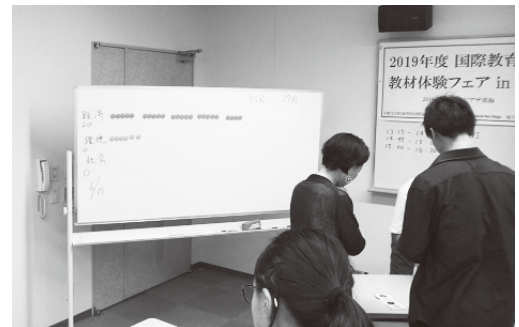
1) カードゲーム「2030 SDGs」のルール・進行の説明

- 二人一組になり、設定されたゴールに向かって、お金や時間を使いながら、手持ちカードの中から取り組むプロジェクトを決めて進めていく。
- プロジェクトが実施される毎に、各チームに所定のお金や時間、思い（経験）を表すカードが手に入る。ただし、プロジェクトには必要な時間や金額が明記されており、その条件がクリアされないと、プロジェクトを完了することができない。
- その際、世界の状況を示したゲージ 3基準：「経済」「環境」「社会」のそれぞれのポイント数をホワイトボードに色分けしたマグネットを貼っていく。



2) カードゲーム「2030 SDGs」の体験

- 1回目は、ひたすら「経済」の状況が良くなったが、逆に「環境」「社会」のポイントが低くなっていった。
→ このまま2030年まで進んでよいのだろうか？

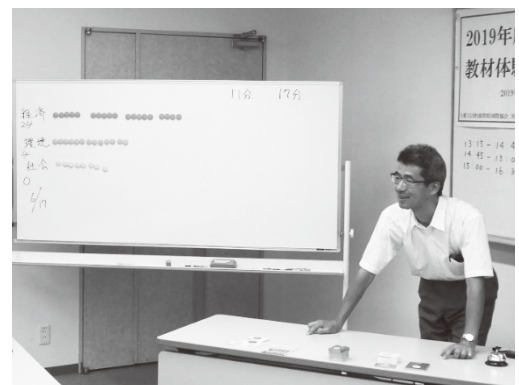


1 回目

- 2回目は、経済発展はそこそこに、自分たちの利益だけを考えるのではなく、地球全体の「環境」や「社会」について考えた上で、活動を進めたグループもあったことから、「環境」「社会」のポイントが急激に改善した。

3) ワークシートを用いて学びの振り返り

今回のゲームを通して、何を学んだかについて意見交換を行った。

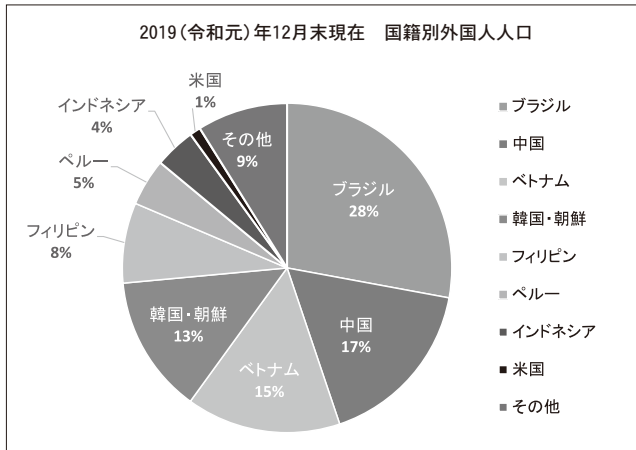


2 回目

資料集

- ◇ 滋賀県における国籍別外国人人口
- ◇ 国際教育研究会 Glocal net Shiga活動報告
- ◇ 国際教育・開発教育貸出教材の紹介

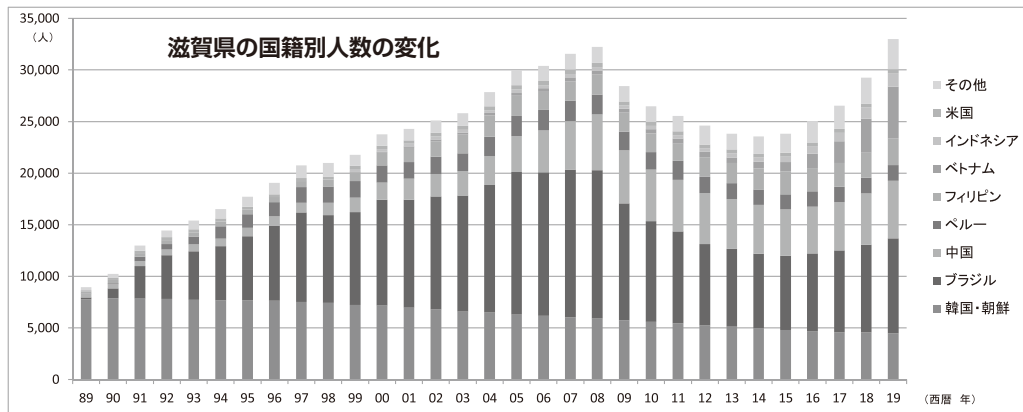
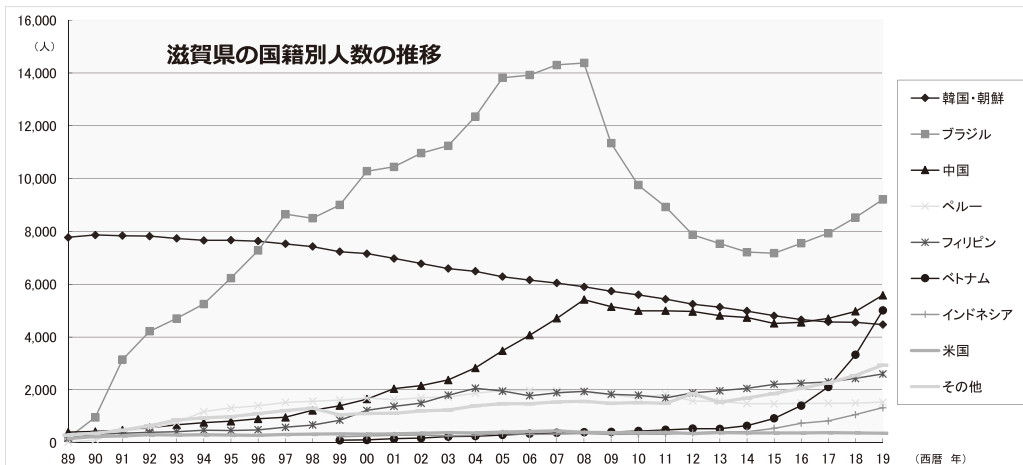
滋賀県における国籍別外国人人口



公益財団法人滋賀県国際協会 作成

国 籍	人口数	前年度比
ブラジル	9,209 人	+684
中国	5,581 人	+614
ベトナム	5,003 人	+1,678
韓国・朝鮮	4,467 人	△ 86
フィリピン	2,599 人	+171
ペルー	1,525 人	+28
インドネシア	1,323 人	+263
米国	354 人	△ 11
その他	2,934 人	+391
合 計	32,995 人	+3,732

*国籍数等: 108ヶ国1地域 (+8か国)



外国人人口の比率が2%以上の市町村 (2019年12月末現在)

	市町村名	外 国 人 人 口 (人)	総人口 (人)	外国人 比率 (%)	備考 (上位4国籍)
1	湖南市	3,347	55,284	6.05%	ブラジル 1,573人, ベトナム 527人, ペルー 352人, 韓国・朝鮮 283人
2	愛荘町	947	21,301	4.45%	ブラジル 559人, フィリピン 110人, ベトナム 84人, 中国 70人
3	甲賀市	3,656	90,708	4.03%	ブラジル 1,472人, ベトナム 492人, 中国 411人, フィリピン 354人
4	東近江市	3,811	114,316	3.33%	ブラジル 1,535人, ベトナム 699人, 中国 403人, フィリピン 353人
5	長浜市	3,807	117,892	3.23%	ブラジル 1,703人, 中国 665人, ベトナム 444人, フィリピン 255人
6	日野町	672	21,486	3.13%	ブラジル 277人, ベトナム 176人, フィリピン 48人, 中国 44人
7	豊郷町	197	7,364	2.68%	ブラジル 95人, ベトナム 35人, 中国 33人, フィリピン 24人
8	彦根市	2,849	112,975	2.52%	ベトナム 638人, 中国 628人, ブラジル 528人, フィリピン 438人
9	草津市	2,950	134,926	2.19%	中国 991人, 韓国・朝鮮 505人, ベトナム 467人, フィリピン 194人
10	栗東市	1,440	70,030	2.06%	ブラジル 307人, ベトナム 293人, 中国 261人, 韓国・朝鮮 216人
	県全体	32,995	1,420,896	2.32%	ブラジル 9,209人, 中国 5,581人, ベトナム 5,003人, 韓国・朝鮮 4,467人

※滋賀県総合企画部国際課の調査に基づく。

※2011年(平成23年)12月末までは外国人登録者数、2012年(平成24年)12月末以降は住民基本台帳人口による。

※2013年(平成25年)12月末の統計より「中国・台湾」で統計をまとめていましたが、2019年(令和元年)12月末統計より「中国」「台湾」で統計をまとめています。

※県民43人(43.06人)に1人が外国人。

「国際教育研究会 ^{くろーがる ネット し が} Glocal net Shiga」について

私たち、「国際教育研究会 ^{くろーがる ネット し が} Glocal net Shiga」は平成15年（2003年）4月に立ち上がったグループです。名前にある“Glocal”とは **Global + Local** を結びつけた造語です。“**Think Globally, Act Locally**”（地球規模で考え、地域から行動する）という開発教育／地球市民教育／グローバル教育の地域社会に対する考え方を表すことばがあり、地球と地域を結ぶことばとして生まれました。

このような考え方をうけ、地元滋賀（Shiga）で地域に根ざした人たちをつなぎ（Network）、みんなで一緒に地球市民を育む活動に取り組んでいきたいという思いが込められています。

会のねらいについて

- 地球上には、自国文化を含め、さまざまな生活・文化等があることを知り、多様性を受け入れること **多様性の尊重**
 - 地域には、さまざまな文化背景や価値観等をもつ人びとがともに暮らしていることを認識し、多文化共生の意識を育むこと **多文化共生社会づくり**
 - 世界と自分はつながっていること、自分たちの生活と地球のどこかで起こっている問題が密接につながっていることを理解すること **相互依存関係の理解**
 - 地球的課題を解決するために行動すること **公正・平和な社会づくり**
- など

こうしたことをねらいとして、さまざまな実践方法（おもに参加型学習法）を学びながら、国際教育を促進することを目的としています。教育関係者・国際協力NGO関係者・外国籍住民・地域国際協会関係者、学生、青年海外協力隊OVなど、さまざまな立場や経歴の持ち主が参加しています。

これまでに滋賀県の特徴を生かした題材をとらえ、「ブラジルボックス」・「“わたしん家の食事から”」・「非識字体験ゲーム 『ここは、何色？』『はじめてのお見舞い』」・「『言葉がわからない』体験ゲーム 何が起こった？(震災編)」などの教材を開発してきました。また、より多くの方に国際教育を体験していただくよう年数回、国際教育ワークショップを開催しております。

今後も幅広い知識や情報の交換を行い、より深みのある内容を取り上げていきたいと考えています。

入会について

毎月1回日曜日に例会を開催しています。さまざまな経歴のメンバーが集まるクラブ活動のような会です。渡航経験や語学については、まったく心配していただく必要はありませんので、この研究会にご関心のある方は、お気軽に下記までお問い合わせください。

国際教育・開発教育についての企画相談、講師派遣も随時承ります。

＜お問合せ先＞

公益財団法人滋賀県国際協会 担当 大森

〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海 2 階

電話：077-526-0931 ファックス：077-510-0601

E-mail：omori@s-i-a.or.jp

研究会 2019年度の主な活動について

開催日	内 容
4 / 27	世界の絵本よみきかせ、甲賀市立貴生川小学校授業実践例紹介、「教材体験フェア」について話し合い ワークショップ体験「先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標SDGsアクティビティ集」より
5 / 19	世界の絵本よみきかせ、「教材体験フェア(兼) 2年次選択研修」 スケジュール・分科会について話し合い ワークショップ体験「グローバル・ビンゴ」「世界一周！旅行ゲーム」
6 / 2	世界の絵本よみきかせ、「教材体験フェア(兼) 2年次選択研修」 スケジュール・分科会について話し合い ワークショップ体験 「カードゲーム『2030 SDGs』」
7 / 28	国際教育教材体験フェア分科会について話し合い、アイセック滋賀大学委員会によるデモンストレーション
8 / 9	国際教育教材体験フェア（兼）滋賀県総合教育センター 教職2年次選択研修「国際理解」 運営・参加
9 / 29	世界の絵本よみきかせ、今年度国際教育ワークショップについて話し合い ワークショップ体験「世界の通学路」フォトランゲージ 関西セミナーハウス研修「多様性が生きる社会 ～人権としての言語から考える～（多文化共生）」報告
10 / 26	世界の絵本よみきかせ ペルーや守山市で行われている読書会・絵本の読み聞かせ活動とその成果・課題について報告 ワークショップ体験 「ファストファッションとフェアトレード」
11 / 23	2019年度国際教育ワークショップ「日本で“外国人”になるということ～多文化共生社会を考える～」に参加
11 / 30	（公財）滋賀県国際協会設立40周年記念事業 滋賀国際交流賞特別賞の授与式へ出席
12 / 15	世界の絵本よみきかせ、日吉中学校 100人村ワークショップ出前授業の日程について打ち合わせ ワークショップ体験「リアル人生ゲーム」
1 / 19	世界の絵本よみきかせ、日吉中学校 世界がもし100人の村だったら出前授業 打ち合わせ
2 / 12	世界の絵本読み聞かせ わたしん家の食事から カードゲーム版 新しい活用法についてデモンストレーション

【今年度の活動の様子】



カードゲーム
「2030 SDGs」体験



世界がもし
100人の村だったら検討



滋賀国際交流賞 特別賞受賞

国際教育・開発教育教材の紹介および貸し出し規定について

(公財) 滋賀県国際協会

当協会では、国際教育および開発教育に関する資料・教材（ビデオ等も含む）を682点（2019年度末現在）所蔵しており、自由に閲覧・視聴することができますので、お気軽にご利用ください。

なお、当協会ホームページからも教材目録、貸出申請書様式が入手できます。

<http://www.s-i-a.or.jp/inquiries/lending>

<利用について>

- 閲覧・視聴 どなたでもご自由にご利用いただけます。
ただし、事務所に保管しておりますので、閲覧を希望される場合は、職員にその旨お伝えください。
- 利用時間 日曜日から金曜日まで（祝日を除く） 午前9時から午後5時まで
- 貸 出 原則として、会員および団体（学校を含む）に限りです。
所定の貸出申込書にご記入の上、当協会窓口にご提出ください。
貸出期間：2週間以内（申請により期間延長可能）
貸出冊数：1回5点以内
- 返 却 当協会窓口まで直接ご返却ください。やむを得ないと認められる場合は、借受側の料金負担のもとに郵送・託送を認めます。
なお、破損、紛失の場合は実費をご負担いただきます。



貸出教材の一部

<お問合せ先>

公益財団法人 滋賀県国際協会

〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

電話 077-526-0931 ファックス 077-510-0601

HP <http://www.s-i-a.or.jp> E-mail info@s-i-a.or.jp

国際教育・開発教育教材目録

	分類番号	教 材 名	発 行 ・ 出 版 社	種 類
1	0-0概論1	NGOスタッフのための国内事業ハンドブック	開発教育協会	ブックレット
2	0-0概論2	参加型 ワークショップ入門	明石書店	書籍
3	0-0概論3	テキスト国際理解	国土社	書籍
4	0-0概論4	国際理解教育 地球市民を育てる授業と構想	国土社	書籍
5	0-0概論5	国際理解 重要用語300の基礎知識	明治図書	書籍
6	0-0概論6	南北問題と開発教育 地球市民として生きるために	亜紀書房	書籍
7	0-0概論7	開発教育2006 Vol.53 特集 開発教育と教材/ スポーツと開発教育	明石書店	書籍
8	0-0概論8	地球市民教育のすすめかた	明石書店	書籍
9	0-0概論9	はてな？ なぜかしら？ 国際問題 全3巻	教育画劇	書籍
10	0-0概論10	開発教育2003 No.47 特集 開発教育のこれまでとこれから	開発教育協会	ブックレット
11	0-0概論11	開発教育2004 No.49 特集 平和を築く学び	開発教育協会	ブックレット
12	0-0概論12	開発教育2004 No.50 特集 地域から描くこれからの開発教育	開発教育協会	ブックレット
13	0-0概論13	開発教育2005 No.51 特集 いのちを育む学び	開発教育協会	ブックレット
14	0-0概論14	開発教育2005 No.52 特集 国際協力と開発教育	開発教育協会	ブックレット
15	0-0概論15	開発教育実践の手引き 開発教育ガイドブック2	国際協力推進協会	ブックレット
16	0-0概論16	「開発教育」ってなあに？ 開発教育Q&A集 改訂版	開発教育協会	書籍
17	0-0概論17	開発教育キーワード51 開発教育ブックレットシリーズNo.5	開発教育協議会	ブックレット
18	0-0概論18	新しい開発教育のすすめ方	古今書院	書籍
19	0-0概論19	新しい開発教育のすすめ方II	古今書院	書籍
20	0-0概論20	World studie 学びかた・教えたかたハンドブック	国際理解教育センター	書籍
21	0-0概論21	地球市民を育む学習 -Global teacher, Global learner	明石書店	書籍
22	0-0概論22	DEAR News 100号へ	開発教育協会	ニュースレター
23	0-0概論23	開発教育2007 vol. 54 特集参加型開発と参加型学習	開発教育協会	書籍
24	0-0概論24	いっしょにESD！環境・人権・参加の新世紀教育	国際理解教育センター	ブックレット
25	0-0概論25	「地球時代」の教育とは	岩波書店	書籍
26	0-0概論26	地域から描くこれからの開発教育	新評論	書籍
27	0-0概論27	開発教育2008 vol. 55 特集 開発教育と市民性	開発教育協会	書籍
28	0-0概論28	開発教育2009 vol. 56 特集 開発教育の教師・指導者とファシリテーター	開発教育協会	書籍
29	0-0概論29	開発教育2010 vol. 57 特集 オルタナティブな経済と開発教育	開発教育協会	書籍
30	0-0概論30	開発教育2011 vol. 58 特集 オルタナティブな教育と開発教育	開発教育協会	書籍
31	0-0概論31	パウロ・フレイレ「被抑圧者の教育学」を読む	太田次郎社エディタス	書籍
32	0-0概論32	世界で生きるカー—自分を本当にグローバル化する4つのステップ	英治出版	書籍
33	0-0概論33	シティズンシップと教育—変容する世界と市民性	頸草書房	書籍
34	0-0概論34	開発教育2012 vol.59 特集 開発教育 この10年 そして未来へ向けて	開発教育協会	ブックレット
35	0-0概論35	開発教育2013 vol. 60 特集 学びとしてのフェアトレード	開発教育協会	ブックレット
36	0-0概論36	開発教育2014 vol. 61 特集 政治を語る市民社会	開発教育協会	ブックレット
37	0-0概論37	地域の問題解決を促進するファシリテーターハンドブック	開発教育協会	ブックレット

国際教育・開発教育 貸出教材目録

38	0-0概論38	この社会で戦う君に「知の世界地図」をあげよう	文芸春秋	書籍
39	0-0概論39	グローバル時代の国際理解教育―実践と理論をつなぐ	明石書店	書籍
40	0-0概論40	100歳のジャーナリストからきみへ (人類)	汐文社	書籍
41	0-0概論41	100歳のジャーナリストからきみへ (育つ)	汐文社	書籍
42	0-0概論42	100歳のジャーナリストからきみへ (生きる)	汐文社	書籍
43	0-0概論43	100歳のジャーナリストからきみへ (平和)	汐文社	書籍
44	0-0概論44	100歳のジャーナリストからきみへ (学ぶ)	汐文社	書籍
45	0-0概論45	SDGsと開発教育 持続可能な開発目標のための学び	学文社	書籍
46	0-0概論46	開発教育2015 vol. 62 特集 「平和」に向き合う開発教育	開発教育協会	ブックレット
47	0-0概論47	開発教育2016 vol. 63 特集 女性をとりまく問題と開発教育	開発教育協会	ブックレット
48	0-0概論48	増補学び舎 中学歴史教科書 ともに学ぶ人間の歴史	学び舎	書籍
49	0-0概論49	開発教育2017 vol. 64 特集 多文化共生社会の未来と開発教育	開発教育協会	ブックレット
50	0-0概論50	基本解説 そうだったのか。SDGs	(一社) SDGs 市民社会ネットワーク	書籍
51	0-0概論51	グローバル時代の「開発」を考える―世界と関わり、共に生きるための7つのヒント	明石書店	書籍
52	0-0概論52	開発教育2018 vol. 65 特集 公正な地球社会のための教育	開発教育協会	ブックレット
53	0-0概論53	国際理解教育 Vol. 22 特集道徳教育と国際理解教育	日本国際理解教育学会	書籍
54	0-0概論54	国際理解教育 Vol. 23 特集アクティブ・ラーニングと国際理解教育	日本国際理解教育学会	書籍
55	0-0概論55	国際理解教育 Vol. 24 特集「移動する子どもたち」と国際理解教育	日本国際理解教育学会	書籍
56	1-0実践事例1	わくわく開発教育 開発教育ブックレットシリーズNo.2	開発教育協議会	ブックレット
57	1-0実践事例2	いきいき開発教育 総合学習に向けてたカリキュラムと教材	開発教育協議会	ブックレット
58	1-0実践事例3	つながれ開発教育 学校と地域のパートナーシップ事例集	開発教育協議会	ブックレット
59	1-0実践事例4	チャレンジ総合的学習1 中学校「国際理解」ファックス教材集	明治図書	書籍
60	1-0実践事例5	「いのち」を考える授業プラン48	小学館	書籍
61	1-0実践事例6	人間関係を豊かにする授業実践プラン50	小学館	書籍
62	1-0実践事例7	みんななどの人間関係を豊かにする教材55	小学館	書籍
63	1-0実践事例8	いっしょに学ぼう Learning Together	国際理解教育センター	ブックレット
64	1-0実践事例9	TOOL8 8つの参加型く基本ツール>を使いこなす	国際理解教育センター	ブックレット
65	1-0実践事例10	STEP5 参加型ですすめる5つのステップ	国際理解教育センター	ブックレット
66	1-0実践事例11	参加型で伝える12のものの見方・考え方	国際理解教育センター	ブックレット
67	1-0実践事例12	対立は悪くない ～学校・地域の問題解決に活かす～	国際理解教育センター	ブックレット
68	1-0実践事例13	Let's Cooperate 穏やかにめごとを解決するための学びかた・教えかたハンドブック	国際理解教育センター	ブックレット
69	1-0実践事例14	ハンドブック 楽しく学び合うワークショップ	国際理解教育情報センター	ブックレット
70	1-0実践事例15	みんなでつなごう！ 教室と世界 「総合的な学習の時間（国際理解）」に役立つ学習プラン	(財) 福島県国際交流協会	ブックレット
71	1-0実践事例16	国際理解教育ハンドブック 地域に暮らす外国人と一緒に学ぼう！	名古屋国際センター	ブックレット
72	1-0実践事例17	参加型学習で世界を感じる 開発教育実践ハンドブック	開発教育協会	ブックレット
73	1-0実践事例18	開発教育・国際理解教育ハンドブック 小中学校教育員用副読本	国際協力推進協会	ブックレット
74	1-0実践事例19	教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻	JICA中部国際センター	ブックレット
75	1-0実践事例20	対立から学ぼう 中等教育におけるカリキュラムと教え方	国際理解教育センター	ブックレット

国際教育・開発教育 貸出教材目録

76	1-0実践事例21	ERIC レッスンバンク	国際理解教育センター	国際理解教育センター	ページ
77	1-0実践事例22	レッスンバンク 『ワールドスタディーズ』追加・発展教材集	国際理解教育センター	国際理解教育センター	
78	1-0実践事例23	レッスンバンク 『人権教育ファシリテーターハンドブック』追加・発展教材集	国際理解教育センター	国際理解教育センター	
79	1-0実践事例24	活動（アクティビティ）で進める国際理解教育教材 全12セット 2005年改訂版	地球の友と歩む会LIFE	ワークキット	
80	1-0実践事例25	グローバル・クラスルーム	明石書店	書籍	
81	1-0実践事例26	身近なことから世界と私を考える授業	明石書店	書籍	
82	1-0実践事例27	市民学習実践ハンドブック	開発教育協会	書籍	
83	1-0実践事例28	国際交流・国際協力に基づくESD教材・カリキュラム	松山ESD促進実行委員会	書籍	
84	1-0実践事例29	食からみえる「現代」の授業	太田次郎エディタス	書籍	
85	1-0実践事例30	はじまりをたどる「歴史」の授業	太田次郎エディタス	書籍	
86	1-0実践事例31	若者のためのESD 「私」から広がる世界	ESDRC	書籍	
87	1-0実践事例32	身近なことから世界と私を考える授業Ⅱ オキナワ・多みんぞくニホン・核と温暖化	明石書店	書籍	
88	1-0実践事例33	世界と私と未来をつなぐ授業づくりガイド 開発教育・ESDを教室へ	開発教育協会	書籍	
89	1-0実践事例34	開発教育実践ハンドブック 参加型学習で世界を感じる[改訂版]	開発教育協会	書籍	
90	1-0実践事例35	社会参画の授業づくり-持続可能な社会に向けて	古今書院	書籍	
91	1-0実践事例36	ファシリテーション・グラフィック入門	明治図書出版	書籍	
92	1-0実践事例37	グループディスカッションで学ぶ社会学トレーニング	三省堂	書籍	
93	1-0実践事例38	「共に生きる」をデザインする グローバル教育教材と活用ハンドブック	メディア総合研究所	書籍	
94	1-0実践事例39	ESD・開発教育 実践者のための ふりかえり・自己評価ハンドブック	開発教育協会	ブックレット	
95	1-0実践事例40	マンガアジアへアジアのマンガから世界を見よう～	名古屋国際センター・国際交流基金	ブックレット	
96	1-0実践事例41	先生とNGOが手をつないだ！地域でつくる国際理解教育	福島県国際交流協会	ブックレット	
97	1-0実践事例42	世界の国を知る 世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来 活用マニュアル	愛知県国際交流協会	ブックレット	
98	1-0実践事例43	世界はともだち2	岩手県国際交流協会	ブックレット	
99	1-0実践事例44	たった一つを変えるだけ：クラスも教師も自立する「質問づくり」	新評論	書籍	
100	1-0実践事例45	生徒の生き方が変わる グローバル教育の実践	メディア総合研究所	書籍	
101	1-0実践事例46	「主体的学び」につなげる評価と学習方法—カナダで実践されるICEモデル（主体的学びシリーズ—主体的学び研究所）	東信堂	書籍	
102	1-0実践事例47	教育ファシリテーターになるう！グローバルな学びをめざす参加型授業	弘文堂	書籍	
103	1-0実践事例48	社会科 アクティブ・ラーニングへの挑戦 社会参画をめざす参加型学習	明石書店	書籍	
104	1-0実践事例49	学び合う場のつくり方——本場の学びへのファシリテーション	岩波書店	書籍	
105	1-0実践事例50	リラックスと集中を一時でつくる アイスブレイク ベスト50	ほんの森出版	書籍	
106	1-0実践事例51	開発教育基本アクティビティ集1—世界とのつながり	開発教育協会	書籍	
107	1-0実践事例52	Social Action Handbook（ソーシャル・アクション ハンドブック）テーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア	開発教育協会	書籍	
108	1-0実践事例53	豊かさの発見	開発教育協会	冊子	
109	1-0実践事例54	アクティブラーニングに使える！ファシリテーターのための参加型アクティビティ集『コミュニケーション編』	NIED・国際理解教育センター	書籍	
110	1-0実践事例55	多文化社会で多様性を考えるワークブック	研究社	書籍	
111	1-1実践事例1	アクティビティ事典 -2002年度版-	国際理解教育センター	CD	
112	1-1実践事例2	ゼロから始める主権者教育 18歳の選挙権	PARC	DVD	
113	2-0南北問題1	フード・ファースト・カリキュラム 食べものを通じて世界を見つめよう	国際理解教育センター	ブックレット	

国際教育・開発教育 貸出教材目録

114	2-0南北問題2	テーマワーク グローバルな視野を活動の中で育てる	国際理解教育センター	ブックレット
115	2-0南北問題3	食べものから世界が見える	地球市民アカデミア	ワークキット
116	2-0南北問題4	マジカルバナナ	地球の木	ワークキット
117	2-0南北問題5	改訂版 NEWマジカルバナナ	地球の木	ワークキット
118	2-0南北問題6	「援助」する前に考えよう 参加型開発とPLAがわかる本	開発教育協会	ブックレット
119	2-0南北問題7①②	いい貿易って何だろう いっぱいのコーヒーから考える世界の貿易 開発教育教材シリーズ②	開発教育協議会	ブックレット
120	2-0南北問題8	たずねてみよう！ カレーの世界 開発教育教材シリーズ③	開発教育協議会	ブックレット
121	2-0南北問題9	改訂版 たずねてみよう！ カレーの世界 開発教育教材シリーズ③	開発教育協議会	ブックレット
122	2-0南北問題10①②	新・貿易ゲーム 開発教育教材シリーズ④	開発教育協会	ブックレット
123	2-0南北問題11	新・貿易ゲーム [改訂版]	開発教育協会	ブックレット
124	2-0南北問題12	貧困と開発 豊かさへのエンパワーメント	開発教育協会	ブックレット
125	2-0南北問題13	コーヒーカップの向こう側	開発教育協会	ブックレット
126	2-0南北問題14	小学校 ユニセフによる地球学習の手引き	教育出版	書籍
127	2-0南北問題15	中学校 ユニセフによる地球学習の手引き	教育出版	書籍
128	2-0南北問題16	地球に学ぶ新しい地理授業	古今書院	ブックレット
129	2-0南北問題17	スマホから考える 世界・わたし・SDGs	開発教育協会	書籍
130	2-0南北問題18	コンビニ弁当 16万キロの旅	太田次郎社	書籍
131	2-0南北問題19	世界から貧しさをなくす30の方法	合同出版	書籍
132	2-0南北問題20	世界と地球の困った現実	明石書店	書籍
133	2-0南北問題21	歩いてみてきいたモノのこし方行く末	京都自由学校	ブックレット
134	2-0南北問題22	バナナとエビと私たち 岩波ブックレットNo.551	岩波書店	ブックレット
135	2-0南北問題23	フェア・トレード 公正なる貿易を求めて	新評論	書籍
136	2-0南北問題24	日本はどこへ行く？	太田次郎社	書籍
137	2-0南北問題25	世界の貧困 1日1ドルで暮らす人びと	青土社	書籍
138	2-0南北問題26	発展神話の仮面を剥ぐ グローバル化は世界を豊かにするのか？	古今書院	書籍
139	2-0南北問題27	徹底解剖100円ショップ 日常化するグローバルゼーション	コモンズ	書籍
140	2-0南北問題28	たまちゃんとう南の人びと	明石書店	書籍
141	2-0南北問題29	たまちゃんとう南の人びと part2	明石書店	書籍
142	2-0南北問題30	たまちゃんとう南の人びと part3	明石書店	書籍
143	2-0南北問題31	世界がもし100人の村だったら (英訳付)	明石書店	書籍
144	2-0南北問題32	世界がもし100人の村だったら②	マガジンハウス	書籍
145	2-0南北問題33	世界がもし100人の村だったら③たべもの編	マガジンハウス	書籍
146	2-0南北問題34	世界がもし100人の村だったら④子ども編	マガジンハウス	書籍
147	2-0南北問題35	新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら	開発教育協会	ブックレット
148	2-0南北問題36	改訂版 100人村カードセット	開発教育協会	ブックレット
149	2-0南北問題37①②	100人村ワークショップセット		ワークキット
150	2-0南北問題38	レヌカの学び	あおもり開発教育研究会	ワークキット
151	2-0南北問題39	ケータイの一生 ― ケータイを通して知る 私と世界のつながり	開発教育協会	ブックレット

国際教育・開発教育 貸出教材目録

152	2-0南北問題40	お弁当屋さんゲーム 一食のグローバルゼーションを考える	開発教育協会	ブックレット
153	2-0南北問題41	ケータイの裏側	コモンズ	書籍
154	2-0南北問題42	世界の半分が餓えるのはなぜ	合同出版	書籍
155	2-0南北問題43	世界がもし100人の村だったら 完結編	マガジンハウス	書籍
156	2-0南北問題44	NHK地球データマップ 世界の“今”から“未来”を考える	NHK出版	書籍
157	2-0南北問題45	原木のある森 コーヒーのはじまりの物語	アフリカ理解プロジェクト	書籍
158	2-0南北問題46	フードマイレージどこからくる？私たちの食べ物	開発教育協会	書籍
159	2-0南北問題47	世界中から人身売買がなくならないのはなぜ？	合同出版	書籍
160	2-0南北問題48	ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第3版	開発教育協会	ブックレット
161	2-0南北問題49	カップめんから世界が見える	WE21 ジャパン 開発教育部会	ワークキット
162	2-0南北問題50	地球の水のものがたり～命の水が遠ざかる国～	WE21 ジャパン 開発教育部会	ワークキット
163	2-0南北問題51	戦闘機1機で学校何校つくれるか？	合同出版	書籍
164	2-0南北問題52	世界から飢餓を終わらせるための30の方法	合同出版	書籍
165	2-0南北問題53	旅をしながら	いのちのことば社	絵本
166	2-0南北問題54	懐かしい未来～ラダックに学ぶこと	なつみらSHOP	書籍
167	2-0南北問題55	妹は3才 お医者さんがいてくれたなら	合同出版	書籍
168	2-0南北問題56	ダイアモンドはほんとうに美しいのか？	合同出版	書籍
169	2-0南北問題57	ぼくは8歳、エイズで死んでいくぼくの話を書いて	合同出版	書籍
170	2-0南北問題58	紛争、貧困、環境破壊をなくすために 世界の子どもたちが語る20のヒント	合同出版	書籍
171	2-0南北問題59	マジカルバナナ V3	地球の木	ワークキット
172	2-0南北問題60	ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第4版	開発教育協会	ブックレット
173	2-0南北問題61	世界の国1位と最下位一国際情勢の基礎を知ろう	岩波ジュニア新書	書籍
174	2-0南北問題62	世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ	汐文社	絵本
175	2-0南北問題63	あなたのTシャツはどこから来たのか？誰も書かなかったグローバルゼーションの真実	東洋経済新報社	書籍
176	2-0南北問題64	ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第5版	開発教育協会	ブックレット
177	2-0南北問題65	世界がもし100人の村だったら お金篇	マガジンハウス	書籍
178	2-0南北問題66	990円のジーンズがつくられるのはなぜ？	合同出版	書籍
179	2-1南北問題1	徹底解剖100円ショップ 日常化するグローバルゼーション	アジア太平洋資料センター	ビデオ
180	2-1南北問題2	あぶない野菜 グローバル化する食卓	アジア太平洋資料センター	ビデオ
181	2-1南北問題3	奪われたエビ	アジア太平洋資料センター	ビデオ
182	2-1南北問題4	エビの向こうにアジアが見える	アジア太平洋資料センター	ビデオ
183	2-1南北問題5	コーヒーの秘密 南北問題が見えてくる！	アジア太平洋資料センター	ビデオ
184	2-1南北問題6	種子をまもれ！ アグリビジネスとたたかうインド農民	アジア太平洋資料センター	ビデオ
185	2-1南北問題7	バナナ植民地・フィリピン	アジア太平洋資料センター	ビデオ
186	2-1南北問題8	ゴミを生かす人びと	アジア太平洋資料センター	ビデオ
187	2-1南北問題9	路上の子どもたち ブラジル・ストリートチルドレンの闘い	アジア太平洋資料センター	ビデオ
188	2-1南北問題10	地球データマップ	NHK	ビデオ
189	2-1南北問題11	つながっている世界 今日からできることってなんだろう？	和歌山県人権啓発センター	CD

国際教育・開発教育 貸出教材目録

190	2-1南北問題12	身近なモノを通して考える、世界の貧困・格差・環境 私たちの暮らしと世界のつながり	関西NGO協議会	DVD
191	2-1南北問題13	あいのり「緑の革命」	日本国際飢餓対策機構	DVD
192	2-1南北問題14	ゴンドールのやさしい光 パワーポイント版	日本国際飢餓対策機構	DVD
193	2-1南北問題15	バイオ燃料 畑でつくるエネルギー	アジア太平洋資料センター	DVD
194	2-1南北問題16	食べるためのマグロ売するためのマグロ	アジア太平洋資料センター	DVD
195	2-1南北問題17	バームオイル	アジア太平洋資料センター	DVD
196	2-1南北問題18	懐かしい未来〜ラダックに学ぶこと&地域から始まる未来：グローバル経済を超えて	なつみらSHOP	DVD
197	2-1南北問題19	フードインク		DVD
198	2-1南北問題20	おじいさんと草原の小学校	アミューズソフトエンタテインメント	DVD
199	2-1南北問題21	もっと！フェアトレード 世界につながる私たちの暮らし	PARC	DVD
200	2-1南北問題22	スマホの真実 紛争鉱物と環境破壊とのつながり/ヴェイク・アップ・コール	PARC	DVD
201	2-1南北問題23	薬は誰のものか エイズ治療薬と大企業の特許権	PARC	DVD
202	2-1南北問題24	コンビニの秘密 便利で快適な暮らしの裏で	PARC	DVD
203	2-1南北問題25	種子（たね）—みんなのもの？ それとも企業の所有物？	PARC	DVD
204	2-1南北問題26	甘いバナナの苦い現実	PARC	DVD
205	2-1南北問題27	最後の一滴まで ヨーロッパの隠された水戦争	PARC	DVD
206	3-0平和1	世界を変えるお金の使い方	ダイヤモンド社	書籍
207	3-0平和2	戦争をやめさせ環境破壊をくいとめる新しい社会のつくり方	合同出版	書籍
208	3-0平和3	〔図説〕世界の紛争地域	PHP研究所	書籍
209	3-0平和4	ほんのすこしの勇気から 難民のオレアちゃんがおしえてくれたこと	求龍堂	書籍
210	3-0平和5	母さん、ぼくは生きてます	マガジンハウス	書籍
211	3-0平和6	正直な気持ちを話そう イスラエル、パレスチナのリアル・ライフ	たちばな出版	書籍
212	3-0平和7	地雷の村で「寺子屋」づくり	PHP研究所	書籍
213	3-0平和8①②	Talk for Peace! もっと話そう！	開発教育協議会	ブックレット
214	3-0平和9	アフガニスタンから来たモハメッド君のおはなし	開発教育協議会	書籍
215	3-0平和10	ぼくの見た戦争 2003年イラク	つげ書房新社	書籍
216	3-0平和11	Peace Archives 平和ミュージアム（DVD付）	ポプラ社	書籍
217	3-0平和12	なんみん 難民理解のためのワークブック 故郷をはなれて	岩波書店	書籍・DVD
218	3-0平和13	増補改訂版 Talk for Peace もっと話そう！ 平和を築くためにできること	難民事業本部	ブックレット
219	3-0平和14	アジアのこころ（英訳付）	開発教育協会	ブックレット
220	3-0平和15	サニーのおねがい 地雷ではなく花をください（英訳付）	自由国民社	絵本
221	3-0平和16	サニー カンボジアへ 続・地雷ではなく花をください（英訳付）	自由国民社	絵本
222	3-0平和17	サニー ボスニア・ヘルツェゴビナへ 続々・地雷ではなく花をください（英訳付）	自由国民社	絵本
223	3-0平和18	サニー アフガニスタンへ 心をこめて地雷ではなく花をください（英訳付）	自由国民社	絵本
224	3-0平和19	難民と地雷 全3巻	草土文化	書籍
225	3-0平和20	平和のアクティビティブック	YMCA	ブックレット
226	3-0平和21	ポーボキ、平和って、なに色？	エピック	絵本
227	3-0平和22	イマジン9 想像してごらん、戦争のない世界を	合同出版	絵本

国際教育・開発教育 貸出教材目録

228	3-0平和23	ほんのすこしの勇気から 難民のオレアちゃんがおしえてくれたこと	求龍堂	書籍
229	3-0平和24	クラスター爆弾なんてもういらない。世界から兵器をなくすみんなの願い	合同出版	書籍
230	3-0平和25	岩波DVDブック Peace Archives 東京・ゲルニカ・重慶 空襲から平和を考える	岩波書店	書籍・DVD
231	3-0平和26	創造的（クリエイティブ）に対立解決―教え方ガイド―	開発教育協会・立教大学	書籍
232	3-0平和27	子どもとできる創造的な対立解決―実践ガイド―	開発教育協会	書籍
233	3-0平和28	井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法	講談社	書籍
234	3-0平和29	『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』	朝日出版社	書籍
235	3-0平和30	ピースフルな子どもたち 戦争・暴力・いじめを越えて	せせらぎ出版	書籍
236	3-0平和31	大量破壊兵器、カラシニコフを世界からなくす方法	合同出版	書籍
237	3-0平和32	ぼくらのアフリカに戦争がなくならないのはなぜ？	合同出版	書籍
238	3-0平和33	さよなら紛争（14歳の世渡り術）	河出書房新社	書籍
239	3-0平和34	ダイヤモンドはほんとうに美しいのか？	合同出版	書籍
240	3-0平和35	ビデオ・メッセージでもすぶアジアと日本―わたしがやってきた戦争のつたえ方（教科書に書かれなかった戦争）	梨の木舎	書籍
241	3-0平和36	へいわってどんなこと？ 日・中・韓平和絵本	童心社	絵本
242	3-1平和1	戦争の傷後 Legacies of War	国連広報センター	ビデオ
243	3-1平和2	難民女性	UNHCR	ビデオ
244	3-1平和3	難民になるって、どういうこと？	UNHCR	ビデオ
245	3-1平和4	難民もみんな同じ地球人	UNHCR	ビデオ
246	3-1平和5	世界の難民はどこに 2004年GLOBAL VIEW	UNHCR	ビデオ
247	3-1平和6	ほんのちょっと変えてみよう	UNHCR	ビデオ
248	4-0環境1	もうひとつの日本地図	野草社	書籍
249	4-0環境2	1秒の世界	ダイヤモンド社	書籍
250	4-0環境3	地球がもし100cmの球だったら	世界文化社	書籍
251	4-0環境4	地球では1秒間にサッカー場1面分の緑が消えている	マガジンハウス	書籍
252	4-0環境5	あなたが世界を変える日	学陽書房	書籍
253	4-0環境6	地球買いモノ白書	コモンズ	書籍
254	4-0環境7	21世紀の子どもたちが地球を救う	プロンズ新社	書籍
255	4-0環境8	ファシリテーター入門	つげ書房新社	書籍
256	4-0環境9	私にできることは、なんだろう	ascom	書籍
257	4-0環境10	にもの木のある村（ベンガル語訳付）	大阪国際交流センター	絵本
258	4-0環境11	森におかえり（英訳付）	自由国民社	絵本
259	4-0環境12	森が海をつくる（英訳付）	自由国民社	絵本
260	4-0環境13	空気はだれのもの？（英訳付）	自由国民社	絵本
261	4-0環境14	ジェイクの海のなかまたち（英訳付）	自由国民社	絵本
262	4-0環境15	ホテルのくる町（英訳付）	自由国民社	絵本
263	4-0環境16	エレナとダフニ（英訳付）	自由国民社	絵本
264	4-0環境17	森の暮らしの記憶（英訳付）	自由国民社	絵本
265	4-0環境18	「私たちのピン川」 北タイ環境教育カリキュラム	開発教育協会	ブックレット

国際教育・開発教育 貸出教材目録

266	4-0環境19	食べものから考える環境教育ガイドブック FOOD	エコ・コミュニケーションセンター	ブックレット
267	4-0環境20	コミュニケーション・エンバワメント	エコ・コミュニケーションセンター	ブックレット
268	4-0環境21	環境教育推進ハンドブック	国際理解教育センター	ブックレット
269	4-0環境22	地球のみかた 地球について学ぶカリキュラム (生徒用)	国際理解教育センター	ブックレット
270	4-0環境23	地球のみかた 地球について学ぶカリキュラム	国際理解教育センター	ブックレット
271	4-0環境24	未来を学ぼう わたしと地球を結ぶ価値観とビジョン	国際理解教育センター	ブックレット
272	4-0環境25①②	パーム油のはなし 「地球にやさしい」ってなんだろう？	開発教育協会	ワークキット
273	4-0環境26	みみずのカーロ シェーファア先生の自然の学校	合同出版	書籍
274	4-0環境27	図解 地球の真実 (別冊宝島 1397)	宝島社	書籍
275	4-0環境28	もっと話そう！エネルギーと原発のこと 参加型で学び合うための16の方法	開発教育協会	書籍
276	4-0環境29	パーム油の話 「地球にやさしい」ってなんだろう？改訂版	開発教育協会	ワークキット
277	4-0環境30	水から広がる学び アクティビティ20	開発教育協会	ワークキット
278	4-0環境31	SDGsと環境教育	学文社	書籍
279	4-1環境1	森はどこへ行く オーストラリアの原生林が日本の紙になるまで	アジア太平洋資料センター	ビデオ
280	4-1環境2	緑の砂漠 植林が環境を破壊する	アジア太平洋資料センター	ビデオ
281	4-1環境3	切り売りされるタイ ブーケット島の観光開発	アジア太平洋資料センター	ビデオ
282	4-1環境4	いつかこの木に見守られて タイ植林体験記	オイスカ	ビデオ
283	4-1環境5	緑の革命「あいのり」		ビデオ
284	4-1環境6	ペットボトルの水	アジア太平洋資料センター	DVD
285	4-1環境7	世界をめぐる電子ゴミ	アジア太平洋資料センター (PARC)	DVD
286	4-1環境8	ハードレイン・バン ドラの箱から降り注ぐ放射能	アジア太平洋資料センター (PARC)	DVD
287	4-1環境9	プラスチックこみ 日本のリサイクル幻想	アジア太平洋資料センター (PARC)	DVD
288	5-0人権1	識字BOX	国際識字年推進和泉連絡会	ワークキット・カルタ・ビデオ
289	5-0人権2	人権教育ファシリテーター・ハンドブック 参加型「気づきから築きへ」プログラム	国際理解教育センター	ブックレット
290	5-0人権3	いっしょに考えて！ 人権 人権教育ファシリテーターハンドブック 発展編	国際理解教育センター	ブックレット
291	5-0人権4	いっしょにすすめよう！ 人権 人権教育ファシリテーターハンドブック 実践編	国際理解教育センター	ブックレット
292	5-0人権5	人権教育のためのコンパス [羅針盤]	明石書店	書籍
293	5-0人権6	同和問題・人権問題学習教材 (パート4) こうもりくん	滋賀県解放県民センター	ブックレット
294	5-0人権7	国際理解教育と人権	開放出版社	書籍
295	5-0人権8	ブエノス・ディアス・ニッポン ～外国人が生きる「もうひとつの日本」～	ラティーナ	書籍
296	5-0人権9	知っていますか？ 死刑と人権 一問1答	解放出版社	書籍
297	5-0人権10	非核と先住民族の独立をめざして	現代人文社	ブックレット
298	5-0人権11	デカセーギ 逆流する日系ブラジル人	草思社	書籍
299	5-0人権12	米軍に土地を奪われた沖縄人	新読書社	書籍
300	5-0人権13	ええぞ、カルロス	大阪市立総合生涯学習センター	絵本
301	5-0人権14	チョコレートから世界が見える人権を基盤にしたESD教材	ヒューライツ大阪	書籍
302	5-0人権15	『人権で世界を変える30の方法』(ヒューマンライツ・ナウ編)	合同出版	書籍
303	5-0人権16	あなたとわたしの幸せを築く世界人権宣言 世界人権宣言	世界人権宣言大阪連絡会議	ブックレット

国際教育・開発教育 貸出教材目録

304	5-0人権17	ハイトスピーチとたたかう！	岩波書店	書籍
305	5-0人権18	人権教育指導資料集 人権教育を進めるために	長野県教育委員会	書籍
306	5-0人権19	地球市民の人権教育ー15歳からのレッスンプラン	解放出版社	書籍
307	5-0人権20	多様性の学級づくり 人権教育アクティビティ集	解放出版社	書籍
308	5-0人権21	外国人はなぜ消防士になれないかー公的な国籍差別の撤廃に向けてー	田畑書店	書籍
309	5-0人権22	ちがいでキドキ多文化共生ナビ〜在日外国人教育実践プラン集〜	大阪府在日外国人教育研究協議会	書籍
310	5-0人権23	ダイバーシティ・トレーニング・ブック 多様性研修のてびき	解放出版社	書籍
311	5-0人権24	むこう岸には	ほるぶ出版	絵本
312	5-0人権25	鳥 よくある物語	飛鳥新社	絵本
313	5-1人権1	国際人権を知っていますか 〜国連と市民のとりくみ〜	ヒューライツ大阪	ビデオ
314	5-1人権2	自立をめざして 〜アジアの女性とこどもたち〜	ヒューライツ大阪	ビデオ
315	5-1人権3	日本の国際化と人権 〜違いを認めあう地域社会を〜	ヒューライツ大阪	ビデオ
316	5-1人権4	女たちが語るインド	アジア太平洋資料センター	ビデオ
317	5-1人権5	もうひとつの戦争 インドの人口政策と女性たち	アジア太平洋資料センター	ビデオ
318	5-1人権6	映画ジャビルカ日本語版 私たちの電気がアポリジニの大地を壊す	アジア太平洋資料センター	ビデオ
319	5-1人権7	ミナンの笑顔 37言語収録版DVD	ACCU	DVD
320	5-1人権8	DVD もうひとつのツーリズム「先住民族エコツアーの始動」 NGO/NPOキャンペンハンドブック	NPO法人さっぽろ自由学校「遊」	DVD
321	6-0英語教育1	JAPAN ALMANAC 2005 英和対訳データ年鑑	朝日新聞社	書籍
322	6-0英語教育2	公立小学校でやってみよう！ 英語	草木文化	書籍
323	6-0英語教育3	総合英語：地球市民として生きる	三修社	ブックレット
324	6-0英語教育4	英語で国際理解教育 (CD付) 小学1・2年版	小学館	書籍・CD
325	6-0英語教育5	英語で国際理解教育 (CD付) 小学3・4年版	小学館	書籍・CD
326	6-0英語教育6	英語で国際理解教育 (CD付) 小学5・6年版	小学館	書籍・CD
327	6-0英語教育7	小学校英語の授業プラン つくって調べる地球環境 (CD付)	小学館	書籍・CD
328	6-0英語教育8	小学生の英会話活動 〜ゲームと歌あそび〜	小学館	書籍
329	6-0英語教育9	英語で広がるわたしたちの世界 もっと知りたい！人間について	金の星社	絵本
330	6-0英語教育10	英語で広がるわたしたちの世界 もっと知りたい！平和について	金の星社	絵本
331	6-0英語教育11	英語で広がるわたしたちの世界 もっと知りたい！環境について	金の星社	絵本
332	6-0英語教育12	英語で広がるわたしたちの世界 もっと知りたい！いろいろな文化	金の星社	絵本
333	6-0英語教育13	英語で広がるわたしたちの世界 もっと知りたい！世界の国々	金の星社	絵本
334	6-0英語教育14	えほんで楽しむ英語の世界	一声社	書籍
335	6-0英語教育15	アメリカの小学校ではこうやって英語を教えている	径書房	書籍
336	6-0英語教育16	CAN YOU FIND ME?	ACCU	絵本
337	6-0英語教育17	はじめての英語の歌ー歌でおぼえるらくらくイングリッシュ	学研マーケティング	書籍
338	6-0英語教育18	ヘンリーおじさんの英語でレッスンができる本ーネイティブが教える、子ども英語教室フレーズ集	アルク	書籍
339	6-0英語教育19	小学校 テーマで学ぶ英語活動 BOOK1	三友社出版	書籍
340	6-0英語教育20	和の行事えほん Annual Events in Japan Spring & Summer	Ehon House	書籍
341	6-0英語教育21	和の行事えほん Annual Events in Japan Autumn & Winter	Ehon House	書籍

国際教育・開発教育 貸出教材目録

342	6-0英語教育22①	your world 英語テキスト		サクソンコンパクトブリッシング	書籍
343	6-0英語教育22②	your world 英語テキスト 別売指導用CD		サクソンコンパクトブリッシング	CD-ROM
344	6-0英語教育23①	your world 国際理解テキスト		サクソンコンパクトブリッシング	書籍
345	6-0英語教育23②	your world 国際理解テキスト 別売指導用CD		サクソンコンパクトブリッシング	CD-ROM
346	6-0英語教育24	チャレンジ！キッズ スピーチ 1 できるよ！はじめてのスピーチ		大月書店	書籍
347	6-0英語教育25	チャレンジ！キッズ スピーチ 2 平和をもとめた子どもたち		大月書店	書籍
348	6-0英語教育26	チャレンジ！キッズ スピーチ 3 子どもの権利をうったえる		大月書店	書籍
349	7-0多文化1	My name is… 世界にひとつだけの名前		角川書店	書籍
350	7-0多文化2	日本のなかの世界		新幹社	書籍
351	7-0多文化3	多文化共生のジレンマ		明石書店	書籍
352	7-0多文化4	多文化共生の学校づくり		明石書店	書籍
353	7-0多文化5	多文化共生のまちづくり		明石書店	書籍
354	7-0多文化6	多文化教育 多様性のための教育学		明石書店	書籍
355	7-0多文化7	幼児のための多文化理解教育		明石書店	書籍
356	7-0多文化8	多文化教育を拓く		明石書店	書籍
357	7-0多文化9	多文化・人権教育学校をつくる		明石書店	書籍
358	7-0多文化10	雨森芳洲と朝鮮通信使かるた		雨森芳洲庵	かるた
359	7-0多文化11	歴史教科書 在日コリアンの歴史		明石書店	書籍
360	7-0多文化12	滋賀のなかの朝鮮		明石書店	書籍
361	7-0多文化13	外国人のためのお弁当 (3ヶ国語：日・中・英語)		関西生命線	書籍
362	7-0多文化14	多文化共生保育Q&A		大阪保育子育て人権情報研究センター	ブックレット
363	7-0多文化15	アフリカ 理解ハンドブック ーアフリカと私たち		アフリカ日本協議会	ブックレット
364	7-0多文化16	くらべてみよう！ 日本と世界の 食べ物と文化		講談社	書籍
365	7-0多文化17	パパラギ		立風書房	絵本
366	7-0多文化18	世界のあいさつ		福音館書店	絵本
367	7-0多文化19	見る・つくる・知る おしゃれなアフリカ1 アフリカンドレス		明石書店	書籍
368	7-0多文化20	見る・つくる・知る おしゃれなアフリカ2 アフリカキンキツチン		明石書店	書籍
369	7-0多文化21	見る・つくる・知る おしゃれなアフリカ3 アフリカインリビング		明石書店	書籍
370	7-0多文化22	たくさんさんのふしぎ傑作集 手で食べる？		福音館書店	絵本
371	7-0多文化23	たくさんさんのふしぎ傑作集 いっぱいの鉛筆のむこうに		福音館書店	絵本
372	7-0多文化24	世界のじゃんけん		今人舎	書籍
373	7-0多文化25	世界の外あそび		今人舎	書籍
374	7-0多文化26	韓国・朝鮮と出会おう		国土社	書籍
375	7-0多文化27	中国と出会おう		国土社	書籍
376	7-0多文化28	フィリピンと出会おう		国土社	書籍
377	7-0多文化29	ブラジルと出会おう		国土社	書籍
378	7-0多文化30	多文化子どもの歌集 (CD付)		明石書店	ブックレット・CD
379	7-0多文化31	朝鮮をどう教えるか		解放出版社	書籍

国際教育・開発教育 貸出教材目録

380	7-0多文化32	オーストラリア発見 (対訳本・ビデオ2本付)	豪日交流基金	ブックレット・ビデオ
381	7-0多文化33	いろんな国・いろんなことば 全6巻 (ビデオ付)	ポプラ社	絵本・ビデオ
382	7-0多文化34	ワールドカドアップメモリーゲーム (2セット)	アンネさん作	ワークキット
383	7-0多文化35	ひょうたん島問題 ～多文化共生をめざして～ (CD付)	デジタルマジック	ワークキット
384	7-0多文化36①②	ブラジルボックス	滋賀県国際協会	ワークキット
385	7-0多文化37①②	かるた “わたしん家の食事から”	滋賀県国際協会	ワークキット
386	7-0多文化38	多文化共生キーワード事典	明石書店	書籍
387	7-0多文化39	ニューカマーの子どもと学校文化	勁草書房	書籍
388	7-0多文化40	外国人の子どもと日本の教育	東京大学出版会	書籍
389	7-0多文化41	ブレノス・ディアス、ニッポンー外国人が生きる「もうひとつのニッポン」	ラティーナ	書籍
390	7-0多文化42	多文化保育論	学文社	書籍
391	7-0多文化43	乳幼児とその家族への早期支援	北大路書房	書籍
392	7-0多文化44	シミュレーション教材「ひょうたん島問題」	明石書店	書籍
393	7-0多文化45	多文化共生社会と外国人コミュニティの力	現代人文社	書籍
394	7-0多文化46	顔の见えない定住化	名古屋大学出版会	書籍
395	7-0多文化47	「多文化パワー」社会ー多文化共生を超えて	明石書店	書籍
396	7-0多文化48	まんが クラスメイトは外国人 多文化共生20の物語	明石書店	書籍
397	7-0多文化49	世界あちこちゆかいな家めぐり	福音館書店	書籍
398	7-0多文化50	トイレのおかげ	福音館書店	書籍
399	7-0多文化51	絵本で育てる情報分析力	一声社	書籍
400	7-0多文化52	多文化共生社会の保育者ーぶつかってもだいじょうぶ	北大路書房	書籍
401	7-0多文化53	異文化コミュニケーションー新・国際人への条件	有斐閣選書	書籍
402	7-0多文化54	絵本 世界の食事①<フランスのごはん>	農文協	書籍
403	7-0多文化55	絵本 世界の食事②<インドのごはん>	農文協	書籍
404	7-0多文化56	絵本 世界の食事③<韓国のごはん>	農文協	書籍
405	7-0多文化57	絵本 世界の食事④<イタリアのごはん>	農文協	書籍
406	7-0多文化58	絵本 世界の食事⑤<メキシコのごはん>	農文協	書籍
407	7-0多文化59	絵本 世界の食事⑥<ドイツのごはん>	農文協	書籍
408	7-0多文化60	絵本 世界の食事⑦<ブラジルのごはん>	農文協	書籍
409	7-0多文化61	絵本 世界の食事⑧<中国のごはん>	農文協	書籍
410	7-0多文化62	絵本 世界の食事⑨<タイのごはん>	農文協	書籍
411	7-0多文化63	絵本 世界の食事⑩<トルコのごはん>	農文協	書籍
412	7-0多文化64	絵本 世界の食事⑪<モンゴルのごはん>	農文協	書籍
413	7-0多文化65	絵本 世界の食事⑫<フィンランドのごはん>	農文協	書籍
414	7-0多文化66	絵本 世界の食事⑬<ベトナムのごはん>	農文協	書籍
415	7-0多文化67	絵本 世界の食事⑭<スベインのごはん>	農文協	書籍
416	7-0多文化68	絵本 世界の食事⑮<ペルーのごはん>	農文協	書籍
417	7-0多文化69	The World of Street Food Easy quick meals to cook at home	ニュー・インターナショナル・ジャパン	書籍

国際教育・開発教育 貸出教材目録

418	7・0多文化70	原木のある森 コーヒーのはじまりの物語			アフリカ理解プロジェクト	書籍
419	7・0多文化71	非識字体験ゲーム 「ここは、何色?」「はじめてのお見舞い」			滋賀県国際協会	ワークキット
420	7・0多文化72	「言葉がわからない」体験ゲーム 何が起った? (震災編)			滋賀県国際協会	ワークキット
421	7・0多文化73	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜	第1巻	生きている知恵	学研教育出版	書籍
422	7・0多文化74	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜	第2巻	人情	学研教育出版	書籍
423	7・0多文化75	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜	第3巻	損得と運	学研教育出版	書籍
424	7・0多文化76	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜	第4巻	才能と経験	学研教育出版	書籍
425	7・0多文化77	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜	第5巻	世の中	学研教育出版	書籍
426	7・0多文化78	日本と世界のおもしろことわざ〜ことわざで文化を比較しよう〜	第6巻	ことわざのいろいろ	学研教育出版	書籍
427	7・0多文化79	私も「移動する子ども」だった 異なる言語の間で育った子どものライフストーリー			くろしお出版	書籍
428	7・0多文化80	在日コリアン女性20人の軌跡			明石書店	書籍
429	7・0多文化81	ぐずぐず言わせて! わたしらの居場所 「わたしのこと」シリーズ vol.2			御神奈川県国際交流協会	書籍
430	7・0多文化82	先住民民族とESD			立教大学ESD研究センター	書籍
431	7・0多文化83	続・先住民民族とESD			立教大学ESD研究センター	書籍
432	7・0多文化84	教材『CHAMPURREANDO〜世界のウチナーンチュ発! 多文化共生』			NPO法人沖縄NGOセンター	教材セット
433	7・0多文化85	世界のウチナーンチュかるたチャンプレアンド 日本語+英語版			NPO法人沖縄NGOセンター	カルタ
434	7・0多文化86	3・11後の多文化家族			明石書店	書籍
435	7・0多文化87	外国にルーツを持つ子どもたち 思い・制度・展望			㈲アジア・太平洋人権情報センター	書籍
436	7・0多文化88	いつだって、そばにいます。			NTT出版	書籍
437	7・0多文化89	未来をつくる教育ESDー持続可能な多文化社会をめざして			明石書店	書籍
438	7・0多文化90	異文化間教育ー文化間移動と子どもの教育			明石書店	書籍
439	7・0多文化91	言葉図鑑 なまえのことばとくらしのことば1 にほんご・えいご・ポルトガルご・スペインご			偕成社	絵本
440	7・0多文化92	言葉図鑑 なまえのことばとくらしのことば2 にほんご・えいご・ポルトガルご・スペインご			偕成社	絵本
441	7・0多文化93	フィリピンかあちゃん奮闘記 in ジャパン			文化社	書籍
442	7・0多文化94	異文化理解入門			平凡社	書籍
443	7・0多文化95	外国人から見たニッポン			ディスカヴァー・トゥエンティワン	書籍
444	7・0多文化96	Playtime			Oxfam	英語絵本
445	7・0多文化97	Bicycles			Oxfam	英語絵本
446	7・0多文化98	Home			Oxfam	英語絵本
447	7・0多文化99	Our Animals			Oxfam	英語絵本
448	7・0多文化100	At School			Oxfam	英語絵本
449	7・0多文化101	ぼく、いいもの いっぱい〜日本語で学ぶ子どもたち〜			子どもの未来社	絵本
450	7・0多文化102	わたしが外人だったころ			福音館書店	絵本
451	7・0多文化103	ビビのアフリカ旅行			ポプラ社	書籍
452	7・0多文化104	まんがで学ぶ 世界の宗教			あさ出版	書籍
453	7・0多文化105	絵本で学ぶイスラームの暮らし			あすなろ書房	絵本
454	7・0多文化106	アラブから こんにちは 灼熱、イスラーム、魔人、子育てー未知なるアラブの生活事情			国書刊行会	書籍
455	7・0多文化107	アイ アム ジャパニーズ これがハーフ芸人の生きる道			ワニブックス	書籍

国際教育・開発教育 貸出教材目録

456	7-0多文化108	ハーフが美人なんて妄想ですから！！ 困った「純ジャパ」との闘いの日々	中央公論新社	書籍
457	7-0多文化109①②	わたしん家の食事から カードゲーム版	(公財)滋賀県国際協会	ワークキット
458	7-0多文化110	境界に生きる 暮らしの中の多文化共生	解放出版社	書籍
459	7-0多文化111	同級生は外国人!?①「どうしてルールが守れないの？」	汐文社	書籍
460	7-0多文化112	同級生は外国人!?②「どうして頭にはスカーフを巻いているの？」	汐文社	書籍
461	7-0多文化113	同級生は外国人!?③「日本がきらいなのかな？」	汐文社	書籍
462	7-0多文化114	いのりー聖なる場所	光村教育図書	絵本
463	7-0多文化115	世界のお弁当～心をつなぐ味レシピ55	河出書房新社	写真集
464	7-0多文化116	おんなし、おんなじ！でも、ちょっとちがう！	光村教育図書	絵本
465	7-0多文化117	アフリカ少年が日本で育った結果	毎日新聞出版	書籍
466	7-0多文化118	まんが クラスメイトは外国人 課題編 私たちが向き合う多文化共生の現実	明石書店	書籍
467	7-0多文化119	ふたりのサンドウィッチ	TOブックス	絵本
468	7-0多文化120	スポーツでひろげる国際理解 3 国境をこえるスポーツ	文溪堂	書籍
469	7-0多文化121	国籍の？（ハテナ）がわかる本	太郎次郎社エディタス	書籍
470	7-1多文化1	アニニョハシムニカ 素顔の韓国 サフデリカー ほぼ笑みの国・タイ	アジア女性交流・研究フォーラム	ビデオ
471	7-1多文化2	スラマシアン インドネシアの子どもたち	アジア女性交流・研究フォーラム	ビデオ
472	7-1多文化3	マブハイ 陽気なフィリピンの子どもたち	アジア女性交流・研究フォーラム	ビデオ
473	7-1多文化4	となりに生きる外国人	アジア太平洋資料センター	ビデオ
474	7-1多文化5	国際理解 はじめの一步 インドネシア・バリ島編	インドネシア教育振興会	CD
475	7-1多文化6	Ciranda,Cirandinha	多文化共生センター	CD
476	7-1多文化7	孤独なツバメたち～デカセキの子供に生まれて～	TOブックス	DVD
477	7-1多文化8	ナニジン？-トモモダチ作戦-	(公財)とよなか国際交流協会	DVD
478	7-1多文化9	こんばんは 墨田区立文花中学校夜間学級	「こんばんは」全国上映	
479	8-0写真1	百年の愚行	紀伊国屋書店	書籍
480	8-0写真2	「ゴミと宝石」 フィリピン、スモーカーマウンテンの子供たち	第三書館	書籍
481	8-0写真3	イラクに生きる I love Iraq	国土社	書籍
482	8-0写真4	INDIA Fairs&Festivals	学研	書籍
483	8-0写真5	Who? 報道されないアフガンの素顔	平和出版	書籍
484	8-0写真6	地球の仲間たち フォトラングージ アメリカ合衆国	開発教育を考える会	ワークキット
485	8-0写真7	地球の仲間たち フォトラングージ エクアドル	開発教育を考える会	ワークキット
486	8-0写真8	地球の仲間たち フォトラングージ エチオピア	開発教育を考える会	ワークキット
487	8-0写真9	地球の仲間たち フォトラングージ ガーナ	開発教育を考える会	ワークキット
488	8-0写真10	地球の仲間たち フォトラングージ コートジボアール	開発教育を考える会	ワークキット
489	8-0写真11	地球の仲間たち フォトラングージ コスタリカ	開発教育を考える会	ワークキット
490	8-0写真12	地球の仲間たち フォトラングージ コロンビア	開発教育を考える会	ワークキット
491	8-0写真13	地球の仲間たち フォトラングージ スリランカ	開発教育を考える会	ワークキット
492	8-0写真14	地球の仲間たち フォトラングージ 中国	開発教育を考える会	ワークキット
493	8-0写真15	地球の仲間たち フォトラングージ ニカラグア	開発教育を考える会	ワークキット

国際教育・開発教育 貸出教材目録

494	8-0写真16	地球の仲間たち	フォトランゲージ	ニジェール	開発教育を考える会	ワークキット
495	8-0写真17	地球の仲間たち	フォトランゲージ	ネパール（ニッキー）	開発教育を考える会	ワークキット
496	8-0写真18	地球の仲間たち	フォトランゲージ	ネパール（ブラサンタ）	開発教育を考える会	ワークキット
497	8-0写真19	地球の仲間たち	フォトランゲージ	ハンガリー	開発教育を考える会	ワークキット
498	8-0写真20	地球の仲間たち	フォトランゲージ	パキスタン	開発教育を考える会	ワークキット
499	8-0写真21	地球の仲間たち	フォトランゲージ	バヌアツ	開発教育を考える会	ワークキット
500	8-0写真22	地球の仲間たち	フォトランゲージ	バプアニューギニア	開発教育を考える会	ワークキット
501	8-0写真23	地球の仲間たち	フォトランゲージ	パラグアイ	開発教育を考える会	ワークキット
502	8-0写真24	地球の仲間たち	フォトランゲージ	ブルガリア	開発教育を考える会	ワークキット
503	8-0写真25	地球の仲間たち	フォトランゲージ	ホンジュラス	開発教育を考える会	ワークキット
504	8-0写真26	地球の仲間たち	フォトランゲージ	ボツワナ	開発教育を考える会	ワークキット
505	8-0写真27	地球の仲間たち	フォトランゲージ	ボリビア	開発教育を考える会	ワークキット
506	8-0写真28	地球の仲間たち	フォトランゲージ	モルディブ	開発教育を考える会	ワークキット
507	8-0写真29	地球の仲間たち	フォトランゲージ	ラオス	開発教育を考える会	ワークキット
508	8-0写真30	地球の仲間たち	フォトランゲージ	ヨルダン	開発教育を考える会	ワークキット
509	8-0写真31	地球家族			TOTO出版	写真書籍
510	8-0写真32	続地球家族			TOTO出版	写真書籍
511	8-0写真33	地球の食卓			TOTO出版	写真書籍
512	8-0写真34	祝祭 世界の祭り・民族・文化			クレオ	写真書籍
513	8-0写真35	地球人記			福音館書店	写真書籍
514	8-0写真36	地球人生活記			福音館書店	写真書籍
515	8-0写真37	地球家族フォトランゲージ版			国際理解教育センター	写真
516	8-0写真38①②	地球家族フォトランゲージ版（A4版）			国際理解教育センター	写真
517	8-0写真39	地球家族フォトランゲージ版（A3版）			国際理解教育センター	写真
518	8-0写真40	地球の食卓フォトランゲージ（B4版）			国際理解教育センター	写真
519	8-0写真41	MONO変身図鑑			JICA	写真、CD
520	8-0写真42	写真集「ギフト」 GIFT to children of Angkor			マガジンハウス	書籍
521	8-0写真43	地球の仲間たち CD・Rom版			開発教育を考える会	CD
522	8-0写真44①②	写真で学ぼう！ 地球の食卓 学習プラン10			開発教育協会	写真、解説書
523	8-0写真45	地球のごはん 世界30カ国80人のいただきます			TOTO出版	写真書籍
524	8-0写真46	トランクの中の日本 米従軍カメラマンの非公式記録			小学館	写真書籍
525	8-0写真47	食べものの記—EATING ON EARTH			福音館書店	写真書籍
526	9-0メディア1	ニュースに耳を傾ける ブローバル・エキスパレス第1号			開発教育協会	ブックレット
527	9-0メディア2	攻撃を超えて ブローバル・エキスパレス第2号			開発教育協会	ブックレット
528	9-0メディア3	難民 ブローバル・エキスパレス第3号			開発教育協会	ブックレット
529	9-0メディア4	イラク グローバル・エキスパレス第4号			開発教育協会	ブックレット
530	9-0メディア5	戦争報道 ブローバル・エキスパレス第5号			開発教育協会	ブックレット
531	9-0メディア6	メディア・リテラシー 【入門編】			リベラタ出版	書籍

国際教育・開発教育 貸出教材目録

532	9-0メディア7	NIE ワークシート 100例		晩成書房	書籍
533	9-0メディア8	時事問題を教室へーグローバルエキスブレス(無料ダウンロード版)		開発教育協会	
534	10-0子ども1	アジアの子ども		明石書店	書籍
535	10-0子ども2	シエラレオネ 5歳まで生きられない子どもたち		アートン	書籍
536	10-0子ども3	こどもの権利を買わないで-ブンとミ-チャのものごと (英訳付)		自由国民社	絵本
537	10-0子ども4	「日本の子どもは何をして働いているの？」		国際子ども権利センター	絵本
538	10-0子ども5	世界の子どもたち NGOの現場から		明石書店	書籍
539	10-0子ども6	ロサーリオの死 -少女の残したものの-		日本ユニセフ協会	書籍
540	10-0子ども7	子ども地球白書2002-2003		朔北社	書籍
541	10-0子ども8	児童の権利に関する条約		外務省	ブックレット
542	10-0子ども9	世界の子どもたちに今おきていること		日本ユニセフ協会	書籍
543	10-0子ども10	多発する少女買春 子どもを買う男たち		新評論	書籍
544	10-0子ども11	子どもたちのアフリカ		岩波書店	書籍
545	10-0子ども12	「ストリートチルドレン・100人の子どもたち」教材パッケージ (ビデオ2本付)		シャブラニール	ワークキット・ビデオ
546	10-0子ども13	わたし8歳、カカオ畑で働きつづけて		ACE	書籍
547	10-0子ども14	ワークシヨップ『大切なものは何ですか?』～こどもたちがうつしたカンボジアの今		エデュケーション・サポート・センター (Edu)	ワークキット
548	10-0子ども15	スクールセクシャルハラスメント		国際子ども権利センター	書籍
549	10-0子ども16	子どもの権利条約カードとユニセフポスターセット			ワークキット
550	10-0子ども17	おいしいチヨコレートの真実～働く子どもたちとわたしたちとのつながり～		ACE	ワークキット
551	10-0子ども18	もたないばあさんと考えよう世界のこと		講談社	書籍
552	10-0子ども19	ぼくら地球市民1 戦争なんてもうやめて		大月書店	書籍
553	10-0子ども20	ぼくら地球市民2 キッズパワーが世界を変える		大月書店	書籍
554	10-0子ども21	ぼくら地球市民3 わたしと地球の約束		大月書店	書籍
555	10-0子ども22	どこにいるかわかる?		こぐま社	絵本
556	10-0子ども23	世界の子どもたちは今ー子ども兵士		リブリオ出版	書籍
557	10-0子ども24	世界の子どもたちは今ー児童労働		リブリオ出版	書籍
558	10-0子ども25	世界の子どもたちは今ー子どもの人身売買		リブリオ出版	書籍
559	10-0子ども26	『ぼくは12歳、路上で暮らしはじめたわけ。――私には何ができますか? その悲しみがなくなる日を夢見て』		合同出版	書籍
560	10-0子ども27	子どもの参加を促すガイド		june	書籍
561	10-0子ども28	貧しい国で女の子として生きるということ 開発途上国からの5つの物語		遊タイム出版	書籍
562	10-0子ども29	「世界中の子どもに教育を」キャンペーン2011 女の子と女性の教育		「世界中の子どもに教育を」キャンペーン事務局	ワークキット
563	10-0子ども30	おかえり、またあえたね ストリートチルドレン・トトのものがたり		東京書籍	書籍
564	10-0子ども31	ダイヤモンドより平和がほしいー子ども兵士・ムリアの告白		汐文社	書籍
565	10-0子ども32	このTシャツはどこからくるの?-ファッションの裏側になる児童労働の真実ー		(特活) ACE	ワークキット
566	10-0子ども33	わたしは13歳、学校に行けずに花嫁になる。		合同出版	書籍
567	10-0子ども34	ぼくがラーメン たべてるとき		教育画劇	絵本
568	10-0子ども35	写真でのぞいてみよう-世界で働く子どもの生活		フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	ワークキット
569	10-0子ども36	児童労働シミュレーションカードゲーム		フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	ワークキット

国際教育・開発教育 貸出教材目録

570	10-0子ども37	わたし8歳、職業、家事使用人	わたし8歳、職業、家事使用人	合同出版	書籍
571	10-0子ども38	すごいね！みんなの通学路	すごいね！みんなの通学路	西村書店	写真絵本
572	10-0子ども39	私はどこで生きていけばいいの？	私はどこで生きていけばいいの？	西村書店	写真絵本
573	10-1子ども1	I am child！ 働かされる子供たち	I am child！ 働かされる子供たち	ILO	ビデオ
574	10-1子ども2	STOP CHILD LABOUR	STOP CHILD LABOUR	ILO	ビデオ
575	11-0地図1	くらべてわかる世界地図① 暴力の世界地図	くらべてわかる世界地図① 暴力の世界地図	大月書店	書籍
576	11-0地図2	くらべてわかる世界地図② 学校の世界地図	くらべてわかる世界地図② 学校の世界地図	大月書店	書籍
577	11-0地図3	くらべてわかる世界地図③ ジェンダーの世界地図	くらべてわかる世界地図③ ジェンダーの世界地図	大月書店	書籍
578	11-0地図4	くらべてわかる世界地図④ 福祉の世界地図	くらべてわかる世界地図④ 福祉の世界地図	大月書店	書籍
579	11-0地図5	くらべてわかる世界地図⑤ 文化の世界地図	くらべてわかる世界地図⑤ 文化の世界地図	大月書店	書籍
580	11-0地図6	ワールドバンク ミニアトラス	ワールドバンク ミニアトラス	シュプリンガー・フェアラーク東京	書籍
581	11-0地図7	食料の世界地図	食料の世界地図	丸善	書籍
582	11-0地図8	NHKスペシャル データマップ63億人の地図 いのちの地図帳	NHKスペシャル データマップ63億人の地図 いのちの地図帳	アスコム	書籍
583	11-0地図9①②	No Longer Down Under	No Longer Down Under	Hallifax	地図
584	11-0地図10	世界がみえる 地図の絵本	世界がみえる 地図の絵本	あすなろ書房	絵本
585	11-0地図11①②	Mapping our World	Mapping our World	Oxfam	ブックレット
586	11-0地図12	今がわかる 時代がわかる 世界地図 2003年版	今がわかる 時代がわかる 世界地図 2003年版	成美堂出版	書籍
587	11-0地図13	今がわかる 時代がわかる 世界地図 2005年版	今がわかる 時代がわかる 世界地図 2005年版	成美堂出版	書籍
588	11-0地図14	今がわかる 時代がわかる 日本地図 2005年版	今がわかる 時代がわかる 日本地図 2005年版	成美堂出版	書籍
589	11-0地図15	Hunger Map もう一枚の世界地図	Hunger Map もう一枚の世界地図	国際連合世界食糧計画	ブックレット
590	11-0地図16	Hunger Map ハンガーマップ	Hunger Map ハンガーマップ	国際連合世界食糧計画	ワークキット
591	11-0地図17	イエティを探せ	イエティを探せ	ゆまに書房	絵本
592	11-0地図18	ピーター図マップ	ピーター図マップ	Oxfam	地図
593	11-0地図19	世界地図（アフリカ中心）	世界地図（アフリカ中心）		地図
594	11-0地図20	<文化の世界地図> 大型地図	<文化の世界地図> 大型地図	グローバルみらい塾	地図
595	11-0地図21	<文化の世界地図> 解説冊子	<文化の世界地図> 解説冊子	グローバルみらい塾	冊子
596	11-0地図22	EARTH at NIGHT 宇宙から見た夜の地球 授業指導例（ポスター） 指導書付き	EARTH at NIGHT 宇宙から見た夜の地球 授業指導例（ポスター） 指導書付き	エネルギー教育全国協議会事務局	地図
597	11-0地図23	MAPS 新・世界地図	MAPS 新・世界地図	徳間書店	地図
598	11-0地図24	地図でみる日本の外国人 改訂版	地図でみる日本の外国人 改訂版	ナカニシヤ出版	書籍
599	12-0国際協力1①②③	JICA フォトランゲージキット	JICA フォトランゲージキット	国際協力事業団	ワークキット
600	12-0国際協力2	いま私たちにできること	いま私たちにできること	国際協力事業団	ブックレット
601	12-0国際協力3①②	ミレニアム開発目標 とともに生きる地球市民	ミレニアム開発目標 とともに生きる地球市民	外務省	ブックレット
602	12-0国際協力4	人口問題 ブリーフィング・キット2001	人口問題 ブリーフィング・キット2001	アジア人口・開発協会	ブックレット
603	12-0国際協力5	世界人口白書2002 人々・貧困・ひろがる可能性	世界人口白書2002 人々・貧困・ひろがる可能性	アジア人口・開発協会	ブックレット
604	12-0国際協力6	世界子供白書2003	世界子供白書2003	ユニセフ	ブックレット
605	12-0国際協力7	世界子供白書2004	世界子供白書2004	ユニセフ	ブックレット
606	12-0国際協力8	世界子供白書2005 危機に晒される子どもたち	世界子供白書2005 危機に晒される子どもたち	ユニセフ	ブックレット
607	12-0国際協力9	世界子供白書2006 存在しない子どもたち	世界子供白書2006 存在しない子どもたち	ユニセフ	ブックレット

国際教育・開発教育 貸出教材目録

608	12-0国際協力10①②	開発のための教育		ユニセフ	ブックレット
609	12-0国際協力11①②	地球のともだち ユニセフワークブック		ユニセフ	ブックレット
610	12-0国際協力12①②	「総合的な学習の時間」とユニセフ		ユニセフ	ブックレット
611	12-0国際協力13	わたしの権利 みんなの権利		ユニセフ	ブックレット
612	12-0国際協力14①②	子どもの権利条約 カードブック		ユニセフ	ブックレット
613	12-0国際協力15①②	ユニセフと世界のともだち		ユニセフ	ブックレット
614	12-0国際協力16①②	国際理解カード		国際協力推進協会	ワークキット
615	12-0国際協力17	学校と地域がつくる国際理解教育		武蔵野市国際交流協会	ブックレット
616	12-0国際協力18	学校と地域がつくる国際理解教育 NGO編		武蔵野市国際交流協会	ブックレット
617	12-0国際協力19	授業に役立つ総合学習の手引き 平成11年度高校教師海外研修に参加して		国際協力事業団	ブックレット
618	12-0国際協力20	国際理解教育の手引き 先生が見てきた国際協力の舞台 H12中学校		国際協力事業団	ブックレット
619	12-0国際協力21	国際理解教育の手引き 地球を枕に夢を見よう H12高校		国際協力事業団	ブックレット
620	12-0国際協力22	国際理解教育の手引き H13高校		国際協力事業団	ブックレット
621	12-0国際協力23	国際理解教育の手引き H13中学校		国際協力事業団	ブックレット
622	12-0国際協力24	国際理解教育の手引き H14高校		国際協力事業団	ブックレット
623	12-0国際協力25	国際理解教育の手引き H15小学校		国際協力事業団	ブックレット
624	12-0国際協力26	協力隊体験を伝えよう2 生きる力を育てるワークショップ集		青年海外協力協会	ブックレット
625	12-0国際協力27	国連ってなあに？		国連広報センター	ブックレット
626	12-0国際協力28	みんなの国連		国連広報センター	ブックレット
627	12-0国際協力29	いっしょにやろうよ 国際ボランティア・NGOガイドブック		三省堂	書籍
628	12-0国際協力30	市民参加で世界を変える		朝日新聞社	書籍
629	12-0国際協力31	せかいじゅうにおともだちをつくらう		国際協力推進協会	紙芝居
630	12-0国際協力32	食べものから世界が見える、どこからきたの？		国際協力推進協会	紙芝居
631	12-0国際協力33	ごはんのこしていいの？		国際協力推進協会	紙芝居
632	12-0国際協力34	「援助」する前に考えよう 参加型開発とPLAがわかる本		開発教育協会	書籍
633	12-0国際協力35	国際協力と開発教育－「援助」の近未来を探る		明石書店	書籍
634	12-0国際協力36	「国際協力」をやってみませんか？仕事として、ボランティアで、普段の生活でも		小学館	書籍
635	12-0国際協力37	貧しい人を助ける理由 遠くの子とあなたとのつながり		日本評論社	書籍
636	13-0韓国文化1	一目で見る韓国		太田次郎社	絵本（ハングル）
637	13-0韓国文化2	壇君神話		太田次郎社	絵本（ハングル）
638	13-0韓国文化3	一目で見る韓国の歴史		太田次郎社	絵本（ハングル）
639	13-0韓国文化4	高句麗への旅		太田次郎社	絵本（ハングル）
640	13-0韓国文化5	韓国の伝統（的生活）		太田次郎社	絵本（韓英）
641	13-0韓国文化6	韓国の遊び		太田次郎社	絵本（韓英）
642	13-0韓国文化7	韓国のシンボル		太田次郎社	絵本（韓英）
643	13-0韓国文化8	韓国の礼儀と風習		太田次郎社	絵本（韓英）
644	13-0韓国文化9	韓国へ行こう！		太田次郎社	絵本（韓英）
645	13-0韓国文化10	ソウルへ行こう！		太田次郎社	絵本（韓英）

国際教育・開発教育 貸出教材目録

646	13-0韓国文化11	栗谷李珥		太田次郎社	絵本 (ハングル)
647	13-0韓国文化12	世宗大王		太田次郎社	絵本 (ハングル)
648	13-0韓国文化13	李舜臣		太田次郎社	絵本 (ハングル)
649	13-0韓国文化14	安重根		太田次郎社	絵本 (ハングル)
650	13-0韓国文化15	柳順寛		太田次郎社	絵本 (ハングル)
651	13-0韓国文化16	金九		太田次郎社	絵本 (ハングル)
652	13-0韓国文化17	興夫と懶夫		太田次郎社	絵本 (ハングル)
653	13-0韓国文化18	お日さまとお月さま		太田次郎社	絵本 (ハングル)
654	13-0韓国文化19	青大将ソンビ		太田次郎社	絵本 (ハングル)
655	13-0韓国文化20	孝行娘沈清		太田次郎社	絵本 (ハングル)
656	13-0韓国文化21	あずき粥婆さんと虎		太田次郎社	絵本 (ハングル)
657	13-0韓国文化22	一粒の粟で結婚した男		太田次郎社	絵本 (ハングル)
658	13-0韓国文化23	五人の力士 (力持ち)		太田次郎社	絵本 (ハングル)
659	13-0韓国文化24	新聞記者が高校生に語る 日本と朝鮮半島100年の明日		彩流社	書籍
660	13-0韓国文化25	ユンノリ物語		太田次郎社	絵本 (ハングル)
661	13-1韓国文化1	韓国朝鮮のあいさつの言葉		太田次郎社	ハネル*
662	13-1韓国文化2	韓国朝鮮の親族呼称		太田次郎社	ハネル*
663	13-1韓国文化3	韓国朝鮮料理		太田次郎社	ハネル*
664	13-1韓国文化4	民族衣装と紐の結び方		太田次郎社	ハネル
665	13-1韓国文化5	初誕生日の服と婚礼服		太田次郎社	ハネル
666	13-1韓国文化6	千字文		太田次郎社	ハネル*
667	13-1韓国文化7	ハングル		太田次郎社	ハネル*
668	13-1韓国文化8	ウリナラ旅行図と半島図		太田次郎社	ハネル*
669	13-1韓国文化9	生活案内標示・交通安全標識		太田次郎社	ハネル*
670	13-1韓国文化10	不思議な体		太田次郎社	ハネル*
671	13-1韓国文化11	図形		太田次郎社	ハネル
672	13-1韓国文化12	色		太田次郎社	ハネル
673	13-1韓国文化13	数字		太田次郎社	ハネル*
674	13-1韓国文化14	動物		太田次郎社	ハネル*
675	13-1韓国文化15	果物・野菜		太田次郎社	ハネル*
676	14-0移民 1	カリナのブラジルとニッポン		JICA横浜海外移住資料館	紙芝居
677	14-0移民 2	弁当からミックスプレートへ		JICA横浜海外移住資料館	紙芝居
678	14-0移民 3	ハワイにわたった日系移民		JICA横浜海外移住資料館	紙芝居
679	14-0移民 4	海を渡った日本人		JICA横浜海外移住資料館	紙芝居
680	14-0移民 5	移民カルタ		JICA横浜海外移住資料館	カルタ
681	14-0移民 6	目で見えるブラジル日本移民の百年		風響社	写真集
682	14-0移民 7	日本・ブラジル 移民カルタ		JICA横浜海外移住資料館	カルタ

国際教育 地球市民を地域とともに育てよう Part18 報告書

発行日 令和 2 年（2020年）3月
発 行 公益財団法人滋賀県国際協会
〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20
ピアザ淡海 2 階
電話 077-526-0931
FAX 077-510-0601
E-mail info@s-i-a.or.jp
URL <http://www.s-i-a.or.jp>
印 刷 佐々木印刷有限公司



分科会1
はじめの一步から ―国際教育・開発教育 入門―



分科会2
大学生と一緒に考えるSDGs(入門)



分科会3
「ブラジルボックス」「ここは、何色?」を活用して
授業をつくる―甲賀市立貴生川小学校の実践より―



分科会4
カードゲーム「2030 SDGs」